

phil 漢方

特 集

第28回 東洋医学シンポジウム

漢方エキス製剤の 上手な使い方

— 困ったときの この一手 —

日 時: 2022年5月27日(金)

13:00~15:00

場 所: ライブ配信(第1会場)

////////////////////
MEDICAL
Publisher

CONTENTS

特 集

第28回 東洋医学シンポジウム

漢方エキス製剤の上手な使い方

－困ったときの この一手－

開会のご挨拶 … 3

東京女子医科大学附属東洋医学研究所 木村 容子

▶ 第一部 －困ったときの この一手－

講演1 月経前症候群に
漢方治療が奏効した一例 … 4

純子ウィメンズクリニック自由が丘 矢内原 純子

講演2 繰り返す膀胱炎に
漢方治療が奏効した2症例 … 6

女性医療クリニックLUNA ネクストステージ 中村 綾子

講演3 顔面潮紅に漢方薬が有効であった症例 … 8

医療法人社団啓友会 久米川病院 皮膚科 佐々木 和江

講演4 耳閉感、難聴、肩こりに
桂枝加苓朮附湯が有効であった症例 … 10

とも耳鼻科クリニック 新谷 朋子

講演5 心窩部鈍痛が抑肝散加陳皮半夏で
症状改善した2例 … 12

けいクリニック 岸本 圭永子

講演6 芍婦調血飲で血圧が安定した
更年期障害の一例 … 14

東京女子医科大学附属東洋医学研究所 陣内 厚子

▶ 第二部 現代の口訣の構築 「葛根湯」と「当帰芍薬散」の口訣を考える

葛根湯の口訣を考える … 16

当帰芍薬散の口訣を考える … 21

phil漢方
No. 90

(2022年9月発行) ISSN 1347-6882

株式会社
メディカルパブリッシャー
〒102-0073
東京都千代田区九段北1-8-3
カサイビルII

編集委員 川越 宏文
多久島 康司

本誌記事は執筆者の原著あるいは発表に基づいており、記事の一部に医療用漢方製剤の承認外の記載が含まれています。
医療用漢方製剤の使用にあたっては、各製剤の添付文書などをご覧くださいませようをお願い申し上げます。

開会のご挨拶



木村 容子 先生

東京女子医科大学附属東洋医学研究所

お茶の水女子大学を卒業後、中央官庁入省（国家公務員1種）

英国Oxford大学大学院 修士課程修了

2000年 東海大学医学部（学士入学）卒業

2002年 東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助教

2007年 同研究所 講師

2008年 同研究所 副所長

2010年 同研究所 准教授

2019年 同研究所 所長／教授

本シンポジウムは、寺澤捷年先生、後山尚久先生と歴代コーディネーターが続けてこられた「こんな時には漢方を」の基本コンセプトを継承しつつ、「漢方エキス製剤の上手な使い方－困ったときの この一手－」と題し、新たな目線で現代医療へエキス漢方を取り入れる実践的な方法を、エキスパートの先生方によるディスカッションを通してご提案したいと考えております。

今回は、婦人科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、消化器内科、漢方診療科の先生方にシンポジストとしてご登壇いただき、幅広い分野にわたる漢方治療の実際についてご紹介いただきます。

第一部では、西洋医学だけでは十分に把握できなかった病態や治療に難渋していた疾患に対し、漢方エキス製剤を併用したことによって、より優れた効果や高い満足度が得られた症例をご提示いただき、日常診療における漢方療法の取り入れ方、文字通りエキス製剤の上手な使い方について検討いたします。

第二部では、頻用処方の中から葛根湯と当帰芍薬散を取り上げ、各科での使用経験を通して現代の“口訣”を考えてみたいと思います。この2処方は、コロナ禍における様々な不調にも各診療科で広く用いられており、今後ますます西洋医学との融合が注目され有効性が増していくと予想される処方です。

各先生方が患者さんを診療するときに頭の中でめぐらせている考えを、できる限り具現化し皆様にわかりやすくお示しすることによって、明日からの臨床に少しでもお役に立てるシンポジウムを目指したいと思います。

第一部 講演 1

月経前症候群に 漢方治療が奏効した一例

矢内原 純子 先生

純子ウィメンズクリニック自由が丘

1996年 聖マリアンナ医科大学医学部 卒業、昭和大学産婦人科学教室 入局
1997年 亀田総合病院 研修
2001年 蒲田総合病院
2004年 昭和大学藤が丘病院(2009年 兼任講師)
2020年 純子ウィメンズクリニック自由が丘 院長

はじめに

月経前症候群(PMS)は「月経前3～10日の黄体期の間に続く精神的あるいは身体的症状で、月経来とともに減退ないし消退するもの」と定義されている。

原因は明らかではないが、選択的セロトニン再取り込み阻害薬が有効とされていることから、卵巣ホルモンと神経伝達物質の間に原因があると推測されている。

症状は、身体症状(乳房張り感、腹部膨満感、むくみ、だるさ、頭痛、腹痛など)と、精神症状(イライラや情緒不安定、抑うつ気分や自己評価の低下など)がみられる。

治療はバランスのとれた食事、適度な運動と、薬物療法などが行われる。

症 例

症 例：37歳 女性。

主 訴：月経前の2週間、全身倦怠感、めまい、動悸、不眠、過食などの症状により調子が悪く、日常生活に支障がある。

現病歴：2人目の出産後に産後うつとなり、臨床心理士等の世話になり、食事指導なども受けることで改善がみられるものの本調子ではない。薬には抵抗があるが、漢方薬なら服用できると考えて当院を受診した。

東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過(図2)：初診時診断はPMSであり、東洋医学的所見より水滯・気の異常と診断し、半夏白朮天麻湯と加味逍遙散の服用を開始した。

治療開始1ヵ月後では症状は改善していなかったため漢方薬の服用を継続した。多忙なために来院できずに1ヵ月間処方空いてしまったが、再来院時に「改善しかけていたのに休薬が入り、また症状が悪化してしまった。漢方が効いていたかもしれない」と前向きな意見も聞くことができた。

その後、症状も改善し、「随分調子が良くなった。1ヵ月のうち3週間はきつかったが、その期間が1週間に減った」と笑顔も見られた。

約1年4ヵ月後に「1週間前の胸のほりが取れない感じが

図1 症例 37歳 女性

主 訴

月経前の2週間、調子が悪く、日常生活に支障がある(全身倦怠感、めまい、動悸、不眠、過食など)。

現病歴

- 2人目出産後、産後うつになった。
- その後は臨床心理士等の世話になっており、食事指導なども受けている。
- ようやく改善がみられるも、本調子ではない。薬には抵抗があるが、漢方薬なら服用できるかもしれないと考えて当院を受診した。

所 見

身長：160cm、体重：64kg、BMI：25、血圧：124/83mmHg
超音波検査：子宮卵巣正常
血液検査：異常なし

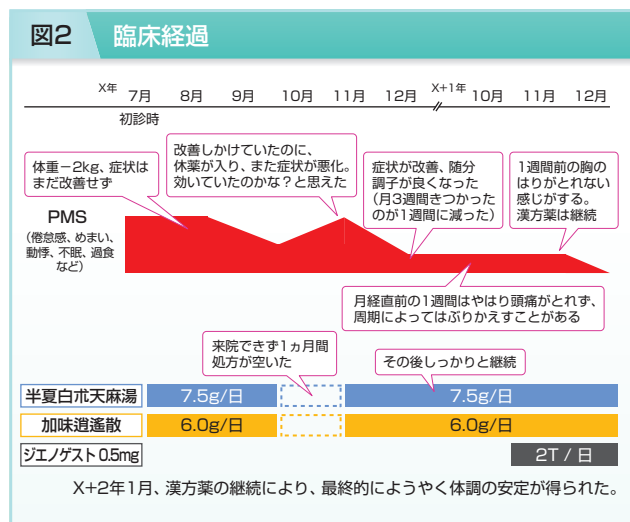
東洋医学的所見

不安な様子、声は小さい。
舌診：淡白肥大、湿潤、舌圧痕あり
脈診：沈滑
腹診：胃内振水音、腹部軟弱
他：眼瞼浮腫、下腿浮腫、足冷

初診時診断／治療

- 初診時診断(X年7月)：月経前症候群(PMS)
- 東洋医学的所見より、水滯、気の異常と診断。半夏白朮天麻湯エキス細粒(7.5g/日)と加味逍遙散エキス細粒(6.0g/日)の処方を開始した。

する」との訴えがあり、ジェノゲストの併用を開始した。現在は良好に経過している。



考 察

PMSは、気虚・気逆・気滞、瘀血、水滯と様々な症状を認める（図3）。

本症例の治療では、水滯に対して半夏白朮天麻湯を選択した。蒼朮・沢瀉・黄柏により組織内に停滞した水分を除去し、浮腫や頭痛の改善を目的とした。また、ふらつき、

図3 原因から考えるPMSの東洋医学的病態

気虚・気逆・気滞

脳内のホルモンや神経伝達物質の異常の関与
→無気力、いらいら、落ち込み、など

瘀 血

月経前は血液が滞った状態
→便秘、ニキビ、のぼせ、下腹部痛、肌荒れ、など

水 滯

黄体ホルモンの水分貯留作用
→むくみ、悪心・嘔吐、めまい、関節痛、冷え、しびれ、など

めまいを強く訴えていたため天麻が必要と考えた。さらに、虚している状態であったため、人参・黄耆などで消化吸収を高め、全身の機能・代謝・抵抗力を高めることを目的とした。

気の治療に対しては、加味逍遙散を選択した。うつ傾向や不安が強かったため、柴胡・薄荷による精神的ストレスの緩和を目的とした（図4）。

図4 半夏白朮天麻湯と加味逍遙散の構成生薬

半夏白朮天麻湯

人参 黄耆

消化吸収を高めて、全身の機能・代謝・抵抗力を高める

蒼朮 沢瀉 黄柏

組織内に停滞した水分を除去し、浮腫や頭痛を改善する

半夏 陳皮 麦芽

消化吸収を補助する

天麻

ふらつき、めまいを改善する

白朮 茯苓 生姜

当歸 芍薬

内分泌や自律神経系機能を調整して月経を調整する

牡丹皮

山梔子

清熱

柴胡 薄荷

イライラ・抑うつ感などの精神的ストレスを緩和する

甘草

加味逍遙散

赤字：温める生薬 青字：冷やす生薬 黒字：どちらでもない

まとめ

PMSは、東洋医学的観点からも、気血水の異常が多岐にわたる病態であると考えられる。

半夏白朮天麻湯は全身倦怠感やめまいの水滯に、加味逍遙散は動悸、不眠、過食などの気滞や気逆に有効であり、PMSの様々な症状に対応することができた。

Discussion

木村：半夏白朮天麻湯と五苓散をどのように鑑別されていますか。

矢内原：頭痛でも、虚証で疲れやすいなどの症状が強いときには人参や黄耆、天麻を含む半夏白朮天麻湯を選択し、頭痛のみのときや口渇が強いときには五苓散を使用しています。

木村：本症例では加味逍遙散が奏効しましたが、「肝」に対する処方の抑肝散加陳皮半夏も鑑別になると思います。先生は臨床でどのように使い分けていますか。

矢内原：不安や抑うつが強いときには加味逍遙散を選択し、肝気の高ぶりが強く、消化器症状を伴う場合には抑肝散加陳皮半夏を選択しています。

第一部 講演2

繰り返す膀胱炎に 漢方治療が奏効した2症例

中村 綾子 先生

女性医療クリニックLUNA ネクストステージ

2007年 横浜市立大学医学部 卒業
日本赤十字社医療センター 臨床研修医
2009年 横浜市立大学泌尿器病態学 入局
みなと赤十字病院、横浜保土ヶ谷中央病院などに勤務
2013年 女性医療クリニックLUNA 泌尿器科
2017年 LUNA骨盤底トータルサポートクリニック 院長
2019年 女性医療クリニックLUNA ネクストステージ 院長

はじめに

細菌性膀胱炎は女性の約半数が生涯で一回は罹患するとされる一般的な疾患である。治療は数日間の抗生剤の服用が基本だが、高齢者や基礎疾患を有する方で細菌性膀胱炎を繰り返すことがある。繰り返す抗生剤の使用は薬剤耐性菌を生み出すリスクがあるため、再発性膀胱炎の方には抗生剤以外の治療が望ましく、漢方製剤の活用は有用な手段の一つである。

症例 1

症 例：18歳 女性。

主 訴：嚢胞性二分脊椎(乳児期に診断)による排尿障害。

現病歴：症候性尿路感染症の発症は1回/年の頻度であったが、就職を機に間歇的自己導尿(CIC)が不規則となり、隔月に膀胱炎を繰り返すようになった。抗生剤の服用で症状は改善していたが、腎盂腎炎を発症し点滴加療のため入院となった。CIC(5回/日)を行っていたが、膀胱炎症状時には膿尿、血尿、尿意亢進、残尿感などの症状を認めた。

東洋医学的所見／検査所見：図1に示す。

臨床経過(図2)：腎盂腎炎の発症で入院した際に、薬剤耐性菌のESBL(Extended-spectrum β -lactamase)が検出された。自己導尿で尿白濁所見を認めたら、自覚症状を認める前に早めに猪苓湯を服用するように指示した。その後は現在に至るまで抗生剤を使用せずに経過をみている。

図1 症例1 18歳 女性

主 訴

嚢胞性二分脊椎による排尿障害。

現病歴

● 嚢胞性二分脊椎あり、排尿管理は間歇的自己導尿(CIC)で経過をみていた。小児泌尿器科を通院していたが、18歳になるのを機会に当院へ転院した。
● 症候性尿路感染症の発症頻度は1回/年であったが、就職を機にCICが不規則になってしまい、隔月に膀胱炎を繰り返すようになった。抗生剤の服用で症状は改善していたが、年末に腎盂腎炎を発症し点滴加療のため入院となった。

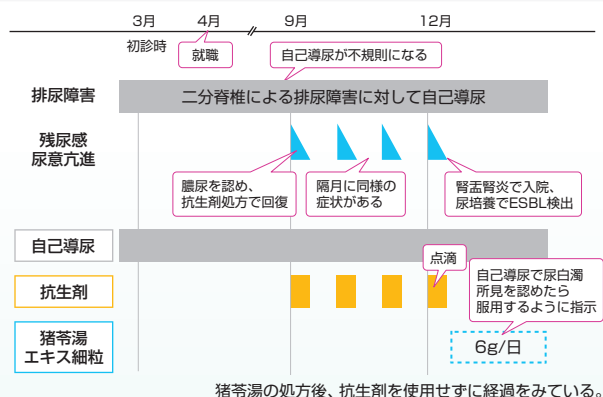
自覚症状

CIC(5回/日)を行っていたが、膀胱炎症状時は膿尿、血尿、尿意亢進、残尿感などの症状を認めた。

東洋医学的所見／検査所見

身長：148cm、体重：37kg、BMI：17
小柄、冷えや疲労傾向あり。
現症：血液検査正常、腹部エコーで両側の腎盂拡張あり。
脈診：やや沈、中
舌診：淡紅色、薄白苔、舌下静脈怒張(一)
腹診：腹力やや弱い

図2 臨床経過



症例 2

症 例：75歳 女性。

主 訴：再発性膀胱炎、頻尿、腰痛、冷え。

現病歴：数年前から夜間頻尿の症状があったが半年前から隔月に膀胱炎症状が出現し、その都度、近医泌尿器科で抗生剤が処方されていた。抗生剤の服用で膀胱炎症状は改善するが、尿道あたりの違和感が続くため当院を受診した。

自覚症状は、日中の頻尿、夜間頻尿1時間ごと、尿道のあたりが嫌な感じがする、便秘ぎみ、足先の冷え、である。

東洋医学的所見／検査所見：図3に示す。

臨床経過(図4)：高齢者の頻尿に有効とされているエストリオールの経膈隔日投与を開始した。冷えや夜間頻尿、腰痛などの所見があり、再発の膀胱炎の背景に腎虚があると判断して八味地黄丸の投与を開始した。

3ヵ月後には冷えは改善し、膀胱炎症状は消失したためエストリオールの投与は中止した。1年後の現在に至るまで膀胱炎の所見はなく、夜間頻尿と腰痛は初診時に比べて非常に良くなったとのことで、八味地黄丸の服用を継続している。

図3 症例2 75歳 女性

主 訴

再発性膀胱炎、頻尿、腰痛、冷え

現病歴

- 数年前から夜間頻尿の症状があったが、半年前から隔月に膀胱炎症状が出現し、近医泌尿器科で抗生剤をその都度処方されていた。
- 抗生剤の服用で膀胱炎症状(排尿時違和感、残尿感、頻尿)は改善するが、尿道あたりの違和感が続くため、X年9月に当院を受診した。

自覚症状

日中の頻尿、夜間頻尿1時間ごと、尿道のあたりが嫌な感じがする、便秘ぎみ、足先の冷えあり。

東洋医学的所見／検査所見

現症：血液検査、尿検査正常。
腹部エコー：腎・膀胱所見なし。
脈診：沈、虚
舌診：紅舌、薄白苔、乾
腹診：腹力弱い、小腹不仁あり、小腹拘急あり。
会陰部：萎縮あり。

考 察

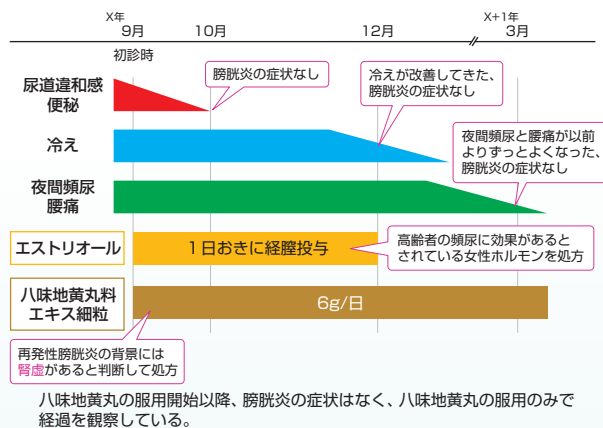
急性膀胱炎の治療に用いられる漢方薬として、第1選択は猪苓湯であり体質にかかわらず使用が可能で、排尿時痛、頻尿、残尿感、膿尿などに適応となる。第2選択は、痛みが強い場合には竜胆瀉肝湯、痛みが軽く頻尿・残尿感が主症状の場合には五淋散を選択する。

再発性膀胱炎の治療には五淋散、六味丸、八味地黄丸、猪苓湯合四物湯、清心蓮子飲などが選択される。症例2で使用した八味地黄丸は、代謝が落ち、冷えを自覚する方で、腎の機能低下が伴う症状に選択する。

まとめ

急性細菌性膀胱炎に対しては症状出現後速やかな猪苓湯の服用が有用であった。高齢の再発性膀胱炎では腎虚や気虚が背景にある場合が多く、腎虚に対する八味地黄丸が有用であった。

図4 臨床経過



Discussion

木村：膀胱炎を繰り返す女性に対する猪苓湯の服用する際のポイントを教えてください。

中村：症状が出現する前に尿の白濁所見が認められます。尿の白濁所見を認めた時点で速やかに猪苓湯を服用していただきます。

木村：症例2では八味地黄丸で便秘が改善していましたが、これはどのようにお考えですか。

中村：八味地黄丸に含まれる地黄の滋潤作用で便秘が改善したと考えています。

木村：高齢者の泌尿器系のトラブルに対し、補腎のほかどのような治療が必要ですか。

中村：骨盤臓器脱を合併して膀胱炎を繰り返すような脾虚のある方に、補中益気湯を使用することが多くあります。

第一部 講演3

顔面潮紅に漢方薬が有効であった症例



佐々木 和江 先生

医療法人社団啓友会 久米川病院 皮膚科

1987年 香川医科大学医学部 卒業
1988年 香川医科大学医学部附属病院皮膚科 助手
1991年 高松赤十字病院皮膚科
1993年 善通寺前田病院皮膚科
1999年 香川医科大学医学部附属病院皮膚科 助手
2001年 ミタニ藤田病院皮膚科
2018年 久米川病院皮膚科

はじめに

顔面潮紅(紅斑・熱感)はアトピー性皮膚炎・にきび・酒皰・皮膚筋炎などの皮膚疾患に伴って見られることもあるが、体質的に見られることもある。西洋医学的に治療対象外とされることが、治療に難渋することも多い。

症例 1

症 例：77歳 女性。

主 訴：以前より発作的に顔面が赤くなる、手が火照ったり冷たくなったりする。

治療歴／東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過(図1)：X-8年3月1日に加味逍遙散を処方した。3月11日に改善傾向がみられ、5月21日には顔面潮紅はほぼ消褪した。加味逍遙散の服用によって排便後のすっきり感があり、体調が良いとのことで本人が服用の継続を希望され、減量しながら服用を継続した。83歳の時点で、便秘気味(コロコロ便)の訴えがあり、腸燥便秘と考えると潤腸湯に変更した。

症例 2

症 例：52歳 女性。

現病歴：X-6年から顔面の紅斑・火照り。

治療歴：今までの治療(ミノサイクリン、ロキシスロマイシン、メトロニダゾール)では満足度は低く、X年5月28

日に当院を初診した。

治療歴／東洋医学的所見：図2に示す。

臨床経過(図2)：加味逍遙散と四物湯を処方したが、次の予約前(6月2日)に「薬が全然効かない」と怒って来院されたため、黄連解毒湯に変更した。5日後(6月7日)の受診時に紅斑・熱感は軽減したが、顔面がヒリヒリして眠れないとの訴えがあり、四物湯を追加した。

1週間後(6月14日)の受診時に顔面の潮紅とヒリヒリ感が「改善している気がする」とのこと、その後も服用を継続した。11月25日に軽快中止となった。

図1 症例1 77歳 女性

主 訴

以前より発作的に顔面が赤くなる。手が火照ったり冷たくなったりする。

所 見

- やせ型 皮膚は乾燥気味
- 便秘・下痢なし
- 腹診：腹力2/5
- 顔面：びまん性紅斑・熱感
- 脈診：沈 弱 数
- 舌診：尖った形 紅舌、薄黄苔

経 過

- X-8年3月 1日 加味逍遙散エキス細粒7.5g/日(分3)処方。
- X-8年3月11日 改善傾向。
- X-8年5月21日 顔面潮紅ほぼ消褪。
- 服用していると排便後すっきり感があるとのことで服用の継続を希望。

臨床経過

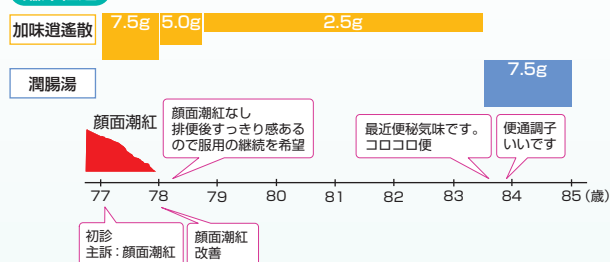


図2 症例2 52歳 女性

主訴／現病歴

X-6年から、顔面の紅斑・火照り。

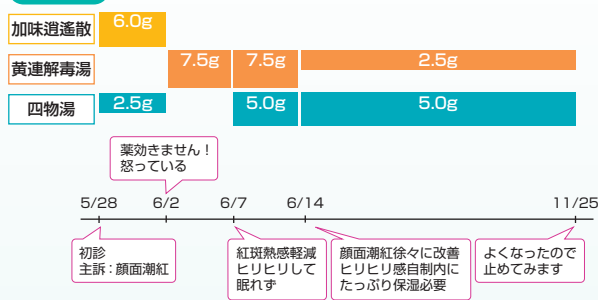
治療歴

- ミノサイクリンで口内が荒れる。
- ロキシシロマイシンは有効だが胃もたれ。
- メトロニダゾールの内服は合わなかった。

所見／東洋医学的所見

- やせ型 顔面は赤黒く火照り。
- 便秘・下痢なし、冷えなし。
- 脈診：沈
- 腹診：腹力2/5、右胸脇苦満
- 舌診：暗紅舌、薄黄苔

臨床経過



考 察

症例1は、逍遙性熱感・冷えのぼせ・虚証から加味逍遙散が有効であった。顔面潮紅は改善するも排便後のすつきり感のため加味逍遙散の服用を継続したが、加齢に伴う腸燥便秘になってきたため潤腸湯に変更した。

症例2は加味逍遙散が無効であり、顔面紅斑・熱感に清熱剤の黄連解毒湯と、表面のヒリヒリ感に対しては四物湯を追加することで、温清飲の方意となった。清熱後に補血をしたことが結果的には良かったと考えている。

顔面潮紅に用いられる生薬を図3に示す。また方剤としては、桂枝茯苓丸・桃核承気湯などの駆瘀血剤、肝気鬱結を治する加味逍遙散、気の巡りを改善する女神散、清熱剤

の黄連解毒湯に補血作用を追加した温清飲や白虎加人参湯が汎用される(図4)。

図3 顔面潮紅に用いる生薬

寒 涼

石膏 清肺胃火熱
黄連 清瀉心胃火熱・燥湿
黄柏 下焦清熱燥湿・堅腎益陰
大黃 通便瀉熱・清熱燥湿・活血通經
知母 清熱・滋陰降火
黄芩 中焦清熱燥
山梔子 三焦清熱瀉火
牡丹皮 涼血活血

活血化癥

桃仁 破血散瘀
川芎 行氣活血

補 血

當歸 補血活血・潤腸通便・調經
白芍 養血柔筋・緩急止痛

順 氣

桂皮(+甘草) 上衝を主治する

図4 顔面潮紅に用いる方剤

桂枝茯苓丸

桃仁 牡丹皮 桂皮 芍薬 茯苓
冷えのぼせ 瘀血 ⇔ 活血化癥

桃核承気湯

桃仁 桂皮 大黃 芒硝 甘草
冷えのぼせ・便秘・精神不安定 瘀血・心熱・腸燥便秘 ⇔ 破血化癥

加味逍遙散

柴胡 當歸 芍薬 白朮 茯苓 生姜 薄荷 山梔子 牡丹皮 甘草
ホットフラッシュ・イライラ・心気症的不定愁訴
脾虚・血虚+ストレス → 肝気鬱結・心肝火旺 ⇔ 疏肝解鬱・健脾養血・清熱

女神散

香附子 黄連 黄芩 當歸 川芎 人参 白朮 桂皮 甘草 檳榔子 丁子 木香
頑固なめまい・のぼせ・頭痛・肩こり
氣血兩虚+七情 → 上衝・血熱 ⇔ 理氣活血

黄連解毒湯

黄連 黄芩 黄柏 山梔子
イライラ・眉間や目の充血 三焦実熱・血熱 ⇔ 清熱瀉火

温清飲

當歸 地黄 芍薬 川芎 黄連 黄芩 黄柏 山梔子
赤黒く乾燥肌 陰虛火旺・血熱 ⇔ 養血補陰・清熱涼血

白虎加人参湯

知母 石膏 人参 甘草 粳米
全身熱感・口渴 裏熱 ⇔ 清熱・益氣生津

赤：熱・温 温める生薬 紫：平 青：涼・寒 冷やす生薬

Discussion

木村：加味逍遙散と黄連解毒湯を顔面潮紅に使用する際の鑑別のポイントを教えてください。

佐々木：冷えの有無が大切で、足や下腹部の冷えなどがない方は黄連解毒湯、ある方は加味逍遙散を使用します。

木村：症例2では清熱後の補血が良かったとのことでした。石膏を含む白虎加人参湯とどのように鑑別されますか。

佐々木：口渴が強く、冷たい飲み物をグイグイと飲みたいという方には、石膏が配合された方剤が適応になります。

木村：桂枝茯苓丸との鑑別についてはどのようにお考えですか。

佐々木：桂枝茯苓丸はさほど気の異常はなくピンクがかった淡い紅斑の方に、黄連解毒湯は顔が真っ赤で頭に血が上ったようなイメージの方に用います。

耳閉感、難聴、肩こりに 桂枝加苓朮附湯が有効であった症例

新谷 朋子 先生

とも耳鼻科クリニック

1987年 札幌医科大学医学部 卒業
1992年 札幌医科大学医学部 助手
2001年 札幌医科大学医学部 講師
2010年 とも耳鼻科クリニックを開業、札幌医科大学 非常勤講師

はじめに

急性低音障害型感音難聴は、急性あるいは突発性に蝸牛症状(耳閉塞感、耳鳴、難聴など)を発症する低音域に限定された感音難聴を呈する疾患で、近年患者数は増加傾向である。

治療には内耳血流の改善薬やビタミンB12などが使用されるが、症状の反復や難聴が高度な場合、耳閉感やめまいなどの症状が残る場合は治療に難渋することがある。

症 例

症 例：77歳 女性。

主 訴：難聴、両耳閉感。

現病歴：X年9月15日から両耳閉塞、左軽度の難聴、めまい(浮動感)があり、10月6日に当院を受診した。聴力検査では左軽度の低音部感音難聴(40dB)で、眼振は認めなかった。

初診時に低音障害型感音難聴(低音部聴力：40dB)の診断で、メコバラミン、アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物を処方した。再診時(10月12日)には、低音部聴力は30dBと難聴は改善したが耳閉感が残存していた。また、以前から自覚していた肩こりが悪化していた(図1)。

東洋医学的所見／治療：図1に示す。肩こりを伴う低音障害型感音難聴として、桂枝加苓朮附湯を処方した。

臨床経過(図2)：桂枝加苓朮附湯の服用によって左耳閉感、肩こりは消失し、低音部の聴力は25dBと改善した。

4週間後に自己判断で服用を中止したところ耳閉感、肩こりが再燃したため12月3日に来院し、低音部の聴力は45dBと悪化していた。桂枝加苓朮附湯の服用再開を希望された。

12月24日の来院時に、低音部聴力は20dBと改善し、耳閉感、肩こりはみられず、桂枝加苓朮附湯の服用を継続している。

考 察

桂枝加苓朮附湯

桂枝加苓朮附湯は、桂枝湯に朮、茯苓、附子を加えた処

図1 症例1 77歳 女性

現病歴

X年9月15日から両耳閉塞、左軽度の難聴、めまい(浮動感)があり、10月6日に当院を受診した。

聴力検査

鼓膜は正常、左軽度の低音部感音難聴(40dB)、眼振はない。

診断と治療

- 初診時：低音部40dB、低音障害型感音難聴の診断でメコバラミン、アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物を処方。
- 再診時：10月12日、低音部聴力30dBと難聴は改善したが、まだ耳閉感がある。以前からある肩こりが最近悪化している。

東洋医学的所見

身長：153cm、体重：59kg、BMI：25.2
排便：0～1回/日、排尿：6～7回/日、夜間尿：1回/日。
脚のむくみあり、冷えはなし。
舌診：胖大舌、瘀血点(+)、舌下静脈怒張(+)、黄色舌、乾燥
脈診：中間 浮
腹診：腹力 3/5、臍周囲の盛り上がり(+)

治 療

肩こりを伴う低音障害型感音難聴 → 桂枝加苓朮附湯

方で、身体を温め、痛みを消散させる作用があり、関節痛や神経痛、冷えによる痛み、手足のしびれやこわばりに適応されている。冷え症で、体力のあまりない人に向く処方と考えている。細野史郎は『漢方医学十講』にて「真武湯と苓桂朮甘湯の方意を有し、極めて多彩な応用範囲をもつ優秀なる薬方」と述べている(図3)。

低音障害型感音難聴

低音障害型感音難聴は、急性あるいは突発性に耳症状(耳閉塞感、耳鳴、難聴)が発症する。低音部(0.125、0.25、0.5Hz)の聴力レベルの合計が70dB以上で、めまいを伴わない(または軽いめまい)。女性に多く、約1割が両側性である。病態はメニエール病と同様に内リンパ水腫の関与が指摘され、治療はステロイド、イソソルビド、循

環改善薬などが用いられる。予後は一般に良好だが、再発や悪化する例、メニエール病に移行する例もある。

肩こり関連めまい

竹越らは¹⁾、メニエール病などの診断がつかない「めまい症」には、肩こり、首こり、頭痛を主とする頸部の異常を伴う患者(肩こり関連めまい)が多く、めまい症例の約4割であると述べている。さらに桂枝加苓朮附湯の奏効例の6割に両側低音部の低下が認められ、蝸牛症状を伴う例は37%と報告している。また、「めまい症」で肩こりがある症例は桂枝加苓朮附湯の新たな適応病態の一つであり、特に女性で低血圧傾向・軽度聴覚症状を伴う症例の有効率は87.0%と報告している。

図2 臨床経過

- 桂枝加苓朮附湯エキス細粒(7.5g/日)を服用。左耳閉感、肩こりが消失、低音部の聴力が25dBと改善したため、服用を中止した。
- 耳閉感、肩こりが再燃したため12月3日入院、低音部45dBと悪化。桂枝加苓朮附湯のみ再開希望。
- 12月24日、低音部聴力20dBと難聴は改善、耳閉感、肩こりはみられない。

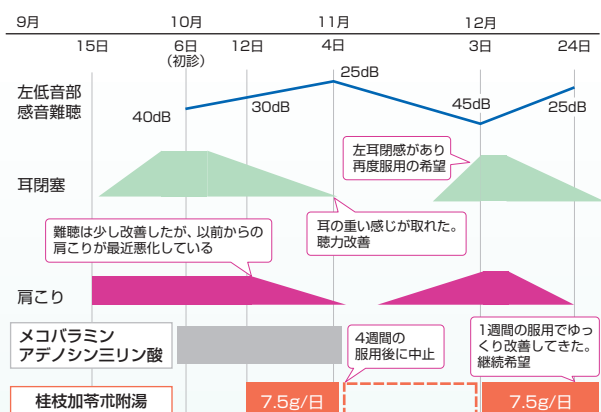


図3 桂枝加苓朮附湯

構成生薬

桂皮、芍薬、大棗、朮、茯苓、甘草、生姜、附子

出典

- 方機 吉益東洞「湿家にして眼目明かならざる者、或いは耳聾し或いは肉じゅん筋惕する者は桂枝加苓朮附湯之を主る。」“湿家”は一般的には「平素から水滯の症候を有する者」
- 尾台榕堂『類聚方広義』 若し心悸目眩し、身じゅん動する者は(桂枝加朮附湯に)茯苓を加えて、桂枝加苓朮附湯と名づく。
過去にめまい・難聴に投与されていたと推察される。
- 細野史郎『漢方医学十講』 真武湯(茯苓、芍薬、朮、生姜、附子)、苓桂朮甘湯(茯苓、桂皮、白朮、甘草)の方意を有し、極めて多彩な応用範囲をもつ優秀なる薬方。

桂枝湯に朮、茯苓、附子を加えたもの、体をあたため、痛みを消散させる作用。関節痛や神経痛、冷えによる痛み、手足のしびれやこわばりに適応。冷え症で、体力のあまりない人に向く処方。

【参考文献】

- 1) 竹越哲男 ほか: 肩こり関連めまいに対する桂枝加苓朮附湯の有効性の臨床的検討。漢方と最新治療 26: 155-161, 2017

Discussion

木村: 桂枝加苓朮附湯は真武湯と苓桂朮甘湯の方意があるとのことでしたが、実臨床においてどのような患者さんに桂枝加苓朮附湯が奏効する印象をお持ちですか。

新谷: 若年から中年の女性で、低血圧傾向かつ筋肉量が少ない方、脾虚が強く補中益気湯などが適するような方、葛根湯などが肩こりに無効な方などが有効と考えています。

木村: 苓桂朮甘湯と半夏白朮天麻湯との鑑別について教えてください。

新谷: 立ちくらみがひどく動悸がある方は苓桂朮甘湯、高齢者で胃腸が虚弱な方や冷えを伴う方には半夏白朮天麻湯などを処方しています。

心窩部鈍痛が抑肝散加陳皮半夏で 症状改善した2例

岸本 圭永子 先生

けいクリニック

1996年 金沢医科大学医学部 卒業
2002年 大阪市立大学大学院 医学部医学科第1外科(現 腫瘍外科学)
2012年 神鋼病院附属神戸ドック健診クリニック
2015年 吉徳会あさざり病院
2020年 けいクリニック開業

はじめに

消化器内科には、胃痛を訴えて来院される患者が多く、その主な疾患には器質性疾患群のほかに慢性胃炎、機能性ディスペプシアなど機能性疾患群がある。機能性疾患群では生活習慣の改善や酸分泌抑制剤などによる治療でも再燃を繰り返す場合が多く、治療に難渋する例は少なくない。

漢方薬は抗不安剤・抗うつ剤のような眠気が出現することなく、服用継続に影響がないうえに、投与することで症状が軽減し、西洋薬の減量・服用不要となる例があることから、漢方薬の活用は患者のQOL向上の一手段と考える。

症例 1

症 例：33歳 女性。

主 訴：胃の鈍痛。

現病歴：X年1月10日より胃の鈍痛があった。食事摂取も可能であるため様子を見ていたが、同18日の夜間に胃の鈍痛とともに左側腹部痛も出現し、このために不眠となったため、翌19日に当院を受診した。

所見／東洋医学的所見および診断・治療：図1に示す。東洋医学的所見より、抑肝散加陳皮半夏を選択した。

臨床経過(図1)：初診後18日目：「胃部鈍痛は少しあるが側腹部痛はなくなった。なんとなく気分も良い」とのことで、抑肝散加陳皮半夏の継続服用を希望された。

初診後30日目：「漢方薬を時々飲み忘れるが、胃の調子は良い。頭に血がのぼる感じ・頭痛も改善している」との

ことで、本人の希望により抑肝散加陳皮半夏の服用を継続し、以後も症状は安定している。

症例 2

症 例：72歳 女性。

主 訴：胃痛。

現病歴：1週間前より食後に胃の鈍痛と嘔気が出現、改善がないため当院を受診した。

所見／東洋医学的所見および診断・治療：図2に示す。東洋医学的所見より、抑肝散加陳皮半夏を選択した。

臨床経過(図2)：初診後11日目：「漢方薬の服用後イライラがなくなり、胃部鈍痛や嘔気が気にならなくなった。中途覚醒もなくなり体調が良い」とのことで、抑肝散加陳皮半

図1 症例1 33歳 女性

所見／東洋医学的所見

- 体格中等。
- 脂ものの摂取で腹痛や下痢になることがある。
- 頭に血がのぼる感覚・頭痛を認める。
- 夜間中途覚醒あり。
- 脈診：沈 やや弦
- 舌診：淡紅色、白苔
- 腹診：腹力3/5、心下痞、臍上悸、両側胸脇苦満、左臍傍圧痛
→抑肝散加陳皮半夏を選択した。

臨床経過

- 抑肝散加陳皮半夏エキス細粒(7.5g/日)で処方を開始した。
- 初診より18日目に再来。
・「胃部鈍痛は少しあるが側腹部痛はなくなった。なんとなく気分も良い」
・抑肝散加陳皮半夏の継続服用を希望された。
- 初診より30日目に再来。
・「漢方薬を時々飲み忘れるが、胃の調子は良い。頭に血がのぼる感じ・頭痛も改善」
・以後も抑肝散加陳皮半夏の継続処方にて症状は安定している。

夏の継続服用を希望された。

初診後30日目：「漢方薬を時々飲み忘れることもあるが、胃部症状は気にならない。気分的にも上向きで調子が良い」とのことで、以後も抑肝散加陳皮半夏の服用を継続中であり、経過は良好である。

考察

抑肝散は、原典の『保嬰金鏡録』で「抑肝散、肝経の虚熱、発搐或は発熱咬牙、或は驚悸寒熱、或は木土に乗じて痰涎を嘔吐し、腹膨少食、睡眠安からざる者を治す」と記されている。山田業広は『椿庭先生夜話』で、「抑肝散は、他の疎肝薬とは大いに異なり、脾胃をたすけて肝をゆるめる薬である」と解説している。

抑肝散加陳皮半夏は抑肝散に陳皮・半夏を加味した処方では、抑肝散+二陳湯から生姜を引いたもの、「肝」に作用する釣藤鈎・柴胡・川芎・当帰と、「脾」に作用する六君子湯から人参・生姜・大棗を引いたものとなっている。脾胃を助ける抑肝散に理気作用のある陳皮・半夏を加えること

で、さらに脾胃を助ける働きを強化した処方と考えられる(図3)。

今回経験した2症例は、胃痛の背景に「肝」の異常が存在したため、抑肝散加陳皮半夏で症状が軽減したと考える。症例1は腹診で臍上悸があったため、抑肝散加陳皮半夏を選択した。左側腹部の強い痛みをともなっており、「左腹部の拘急」と考えると抑肝散の腹証であったと考える。抑肝散は「脾胃を助けて肝を緩める薬」であり、消化機能が低下し、かつ、「肝」の異常を認める症例に適応がある。さらに、ここに理気作用がある陳皮・半夏を加味した抑肝散加陳皮半夏は「胃痛症状」にも有用であることが示唆された。

まとめ

心窩部鈍痛に抑肝散加陳皮半夏が有用な2例を経験した。抑肝散加陳皮半夏は抑肝散証が慢性に経過し、やや虚証で、大動脈拍動が触知される患者に適応がある。胃痛の訴えとともにイライラ・焦燥感・中途覚醒といった「肝」の異常を伴う場合の選択肢の一つに挙げられる。

図2 症例2 72歳 女性

所見／東洋医学的所見

身長：161cm、体重：45.7kg、BMI：17.6
中途覚醒あり。家人にイライラすることがある。不安感がある。食欲低下、体重減少あり不安。目が疲れやすい。身体がだるい。
脈診：浮沈中間 弦
舌診：紅、白苔、舌下静脈怒張
腹診：腹力2/5、心下痞、両胸脇苦満、臍上悸、下腹膨満
→ 抑肝散加陳皮半夏を選択した。

臨床経過

- 抑肝散加陳皮半夏エキス細粒(7.5g/日)で処方を開始した。
- 初診より11日目に再来。
 - ・「漢方薬の服用後イライラがなくなり、胃部鈍痛や嘔気が気にならなくなった。中途覚醒もなくなり体調が良い」
 - ・抑肝散加陳皮半夏の継続服用を希望された。
- 初診より30日目に再来。
 - ・「漢方薬を時々飲み忘れることもあるが、胃部症状は気にならない。気分的にも上向きで調子が良い」
 - ・以後も抑肝散加陳皮半夏の服用を継続している。

図3 抑肝散加陳皮半夏の処方構成

抑肝散加陳皮半夏										
釣藤鈎	柴胡	川芎	當歸	茯苓	白朮	甘草	陳皮	半夏	赤：溫性 黒：平性	紺：寒性
									原典：「本朝經驗方」	
① 抑肝散＋二陳湯－生姜										
② 釣藤鈎・柴胡・川芎・當歸＋六君子湯－人參・生姜・大棗（肝）（脾）										
柴胡	疎肝・清熱			熄風			釣藤鈎			
當歸・川芎	補血・活血			健脾			甘草・白朮・茯苓			
陳皮・半夏	理氣									

Discussion

木村：抑肝散の原典にある「木土に乗じて」は、五臓における「木剋土」の関係ですが、各症例でイライラなどの原因となるストレスはありましたか。

岸本：症例1は職場環境が変化したことによるストレス、症例2は飲食店経営者でコロナ禍でのストレスがありました。

木村：肝と脾の相剋関係では抑肝散加陳皮半夏以外にも加味逍遙散も鑑別に挙げられると思いますが、先生はどのように鑑別をされていますか。

岸本：加味逍遙散は冷ます生薬が多いので、脾の所見としては熱状がある状況に良いと思います。抑肝散加陳皮半夏は脾胃を助ける働きに、半夏・陳皮が加味されているので、より胃部症状が強い方に良いと思います。

芍婦調血飲で血圧が安定した更年期障害の一例



陣内 厚子 先生

東京女子医科大学附属東洋医学研究所

2009年 獨協医科大学医学部 卒業
2010年 獨協医科大学病院 研修
2012年 東京女子医科大学東医療センター 内科
2014年 東京女子医科大学附属東洋医学研究所

はじめに

漢方外来で血圧の相談は多く、特に更年期女性の自律神経障害が背景にある例が多い。現代治療による降圧管理は必要だが、コントロールが困難な症例や降圧薬による副作用が強い症例では漢方治療が大いに役立つと考える。

芍婦調血飲は産後の処方として知られているが、生薬構成から考えても、産後に限らず広く婦人科系の疾患に応用できると考える。生薬数が多く、気血水のバランスがとれているところから、加味逍遙散との鑑別がポイントとなる。

症 例

症 例：51歳 女性、介護職。

主 訴：夜に血圧が上がる、冷える、不安感、動悸、不眠。

現病歴：X-1年11月から高血圧の診断で降圧薬等による治療が開始された。X年に冷え・不安感・不眠・動悸が増悪し、更年期障害と不眠症の診断にて西洋医学的治療がなされたが無効であった。夜間首筋に不快感(蟻走感)を感じ、収縮期血圧は180mmHg程度に上昇した。かかりつけ医が漢方薬も処方したが無効であり、X年11月に当院を初診した。

初診時自覚症状／現症／東洋医学的所見：図1に示す。虚証の閉経期女性で気うつがあり、疲れやすい・立ちくらみ・眠りが浅い・冷える・不安感と気血両虚が目立ったことから、芍婦調血飲を処方した。

臨床経過(図2)：芍婦調血飲の服用1週間で血圧が安定し、

併用していた西洋薬の服用を中止、2週間で動悸が減り気分も楽になった。4ヵ月後には不眠以外の症状は気にならなくなり、血圧も安定したまま維持できている。芍婦調血飲の単独処方では以後は良好に経過している。

図1 症例 51歳 女性

主 訴

夜に血圧が上がる、冷える、不安感、動悸、不眠。

現病歴

- X-1年3月の月経を最後に閉経。同年11月から高血圧の診断で、オルメサルタンメドキシミル・アゼルニジピン配合錠、カリジノゲナーゼ錠にて治療が開始された。
- X年、冷え・不安感・不眠・動悸が増悪し、更年期障害と不眠症の診断でエストロジオール外用ゲル剤、ロルメタゼパム錠による治療が開始されたが、改善しなかった。
- 夜間首筋に不快感(蟻走感)を感じ、収縮期血圧は180mmHg程度に上昇している。かかりつけ医が漢方薬も処方したが効果を感じず、X年11月に当院を初診した。

初診時自覚症状

食欲低下、寝つきが悪い、眠りが浅い、寒がり、冷える(手足)、疲れやすい・だるい(全身)、**不安感**、焦燥感、無気力、ゆううつ感、イライラする、立ちくらみ、身体の不快・違和感、首筋こり、肩こり、**動悸**、夜間頻尿(2回～)

赤字は○項目

- | | |
|-----------------------|----------|
| ・食欲低下 | ……………脾虚? |
| ・疲れやすい、だるい、冷える | ……………気虚 |
| ・眠りが浅い、不安感、立ちくらみ、(冷え) | ……………血虚 |
| ・不安感、焦燥感、ゆううつ、イライラ | ……………気うつ |
| ・閉経期、こり、(冷え) | ……………瘀血 |

現症／東洋医学的所見

身長：168cm、体重：49kg、BMI：17.4、
血圧：116/85mmHg、脈拍：100回/分整

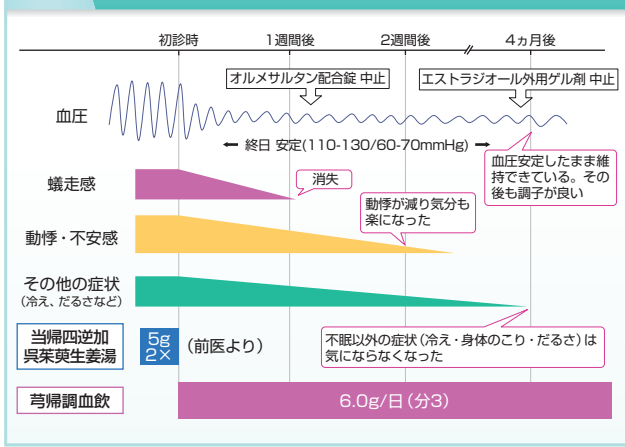
脈診：緊張は中等度、浮 数

舌診：淡紅色、舌質は中等度で乾燥、薄白苔、亀裂(±)、**舌下静脈怒張(++)**

腹診：**腹力やや軟弱で腹壁は薄い**、腹部動悸(+)、小腹不仁(+)

瘀血はあるが
虚弱な印象…

図2 臨床経過



考察

芍婦調血飲

芍婦調血飲は、原典の『万病回春』に芍婦補血湯の名で記載されている。構成生薬は、当帰・川芎・熟地黄・白朮・茯苓・陳皮・烏薬・香附子・乾姜・益母草・牡丹皮・甘草（姜棗煎）で、気血水のバランスの良い配合となっている。

漢方一貫堂医学では、「芍婦調血飲の腹証は、やわらかな腹証で腹内に瘀血の存在はほとんど認められない」とあり、本症例も腹診で瘀血の圧痛は認めなかった。

矢数道明は『新版漢方後世要方解説』で、「芍婦調血飲は八珍湯より芍薬と人参を去り、牡丹皮・益母草の駆瘀血剤、香附子・烏薬・乾姜の順気健胃剤を配合したもの」であり、気血両虚はあるものの八珍湯や大補湯ほどの虚状のないものに広く用いられると述べている（図3）。

加味逍遙散との鑑別

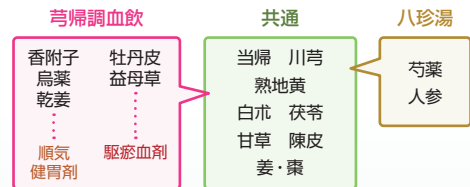
本症例は不安感が解消され、自律神経の乱れが整ったことで、血圧の安定に繋がったと推測した。補血活血に理気作用も含む処方に、虚証の更年期障害に頻用される加味逍遙散が鑑別に挙げられる。両者の理気作用を比較すると、

加味逍遙散は柴胡剤で“肝気”の鬱滞を治す、気（血）を降ろして“熱”を冷ます効能を含む。芍婦調血飲は香附子・烏薬・陳皮と、気の巡りを優しく改善させる印象があり、「理気作用」にも違いがあると思われる。

寒熱の鑑別では、芍婦調血飲は身体を温める生薬が大半で構成されているが、加味逍遙散は身体を温める生薬だけでなく熱を冷ます生薬も配合されているというように、芍婦調血飲は加味逍遙散よりも身体を温める処方である。

芍婦調血飲はその生薬構成から加味逍遙散と同様に様々な症状に応用できると考えられる（図4）。

図3 芍婦調血飲



芍婦調血飲は、八珍湯より芍薬と人参を去り、牡丹皮・益母草の駆瘀血剤、香附子・烏薬・乾姜の順気健胃剤を配合したもの。
八珍湯や大補湯ほどの虚状のないものに広く用いられる。

気血両虚はあるが

新版漢方後世要方解説 矢数道明 101.

図4 芍婦調血飲と加味逍遙散の鑑別

芍婦調血飲	加味逍遙散
気血水バランスよい生薬構成 血を補い巡らせる生薬と気を巡らせる生薬を多く含む	
身体を温める作用が強い	温める作用と熱を冷ます作用がいずれも調和している
理気薬はやさしく気を巡らすイメージ… 不安感>イライラ	理気薬は肝気の鬱滞を去り降気・清熱的作用も含む… イライラ>不安感
気血を補う生薬が多い	

生薬構成から、芍婦調血飲も加味逍遙散のように様々な症状に応用できるのではないかと考えた…

Discussion

木村：芍婦調血飲と加味逍遙散の鑑別について、先生は臨床においてどのあたりにポイントを置いていますか。

陣内：芍婦調血飲は優しく気を巡らせるような作用があり不安感が目立つ方、また加味逍遙散よりも気血両虚を補う作用があるので、虚労の方に用います。

木村：虚証の不安感では加味帰脾湯との鑑別も必要になると思いますが、先生はどのように鑑別されていますか。

陣内：本症例のように冷えが目立ち、熱症状がない方には芍婦調血飲のような温性の処方の使用を考えました。加味帰脾湯は参考剤であるため、虚労によって精神神経症状が現れているような方によいと思います。

第二部

現代の口訣の構築 「葛根湯」と「当帰芍薬散」の 口訣を考える

木村 本セッションでは、一つの処方を横断的に検討して“現代の口訣”を導き出します。すでに、抑肝散加陳皮半夏と補中益気湯(2015年)、五苓散と柴胡加竜骨牡蛎湯(2016年)、人參養榮湯と加味帰脾湯(2017年)、桂枝茯苓丸と加味逍遙散(2018年)、八味地黄丸と白虎加人參湯(2019年)、半夏厚朴湯と柴苓湯(2021年)について検討してまいりました。

そして今回は、葛根湯と当帰芍薬散について検討いたします。

葛根湯の口訣を考える

木村 葛根湯は桂枝湯に葛根・麻黄が加わった処方であり、効能・効果は「感冒、鼻かぜ、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛み」です。

原典は『傷寒論』で、「太陽病、項背強ばること几几、汗なく悪風する者は葛根湯之を主る」「太陽と陽明の合病は必ず自下利す。葛根湯之を主る」と記されています。また、『金匱要略』瘧疾病では瘧疾(後頸部・背部が硬直して、腰背が反り返る病態。破傷風による角弓反張など)に関する解説があります。

葛根湯は、一般的には熱性疾患の感冒初期に用いる代表的な処方であり、太陽病表実証、外感風寒による悪風・頭痛・無汗および項背部のこわばりに用いる処方です。

葛根湯の臨床応用について、浅田宗伯は『勿誤薬室方函口訣』で、「此方外感の項背強急に用いることは五尺の童子も知ることなれども、古方の妙用種々ありて思議すべからず。譬えば、積年肩背に凝結ありて其痛時々心下にさしこむ者此方にて一汗すれば忘るるが如し」と述べています。

尾台榕堂は『類聚方広義』頭注に、「此の処方、項背強急を主治するなり(項背強急+発熱悪寒+脈浮数)、髄膜炎や破傷風、産後の感冒で、痙攣して気絶するもの、天然痘の初期、麻疹の初期、咽喉の腫痛、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎」と様々な熱性疾患を挙げています。

このように葛根湯は、様々な熱性疾患の初期の項背部のこわばり、慢性的な肩背部のこり、さらには目・耳・咽喉・皮膚疾患の初期にも用いられる処方です(図1)。

図1 葛根湯

構成生薬

葛根、麻黄、桂皮、芍薬、甘草、大棗、生姜(桂枝湯+葛根・麻黄)

効能・効果

感冒 鼻かぜ 頭痛 肩こり 筋肉痛 手や肩の痛み

原典『傷寒論』

「太陽病、項背強ばること几几、汗なく悪風する者は葛根湯之を主る」
「太陽と陽明の合病は必ず自下利す。葛根湯之を主る」

『金匱要略』瘧疾病

「太陽病、汗なくして小便反て少なく、氣上って胸を衝き、口噤し語ることを得ず 剛瘧を作さんと欲す。葛根湯之を主る」
瘧疾：後頸部・背部が硬直して、腰背が反り返る病態。破傷風による角弓反張など。

熱性疾患の感冒初期に用いる代表的な処方：太陽病表実証
外感風寒による悪風・頭痛・無汗+項背部のこわばり

浅田宗伯『勿誤薬室方函口訣』

此方外感の項背強急に用いることは五尺の童子も知ることなれども、古方の妙用種々ありて思議すべからず。譬えば、積年肩背に凝結ありて其痛時々心下にさしこむ者此方にて一汗すれば忘るるが如し。

独活・地黄を加えて産後柔中風を治し
蒼朮・附子を加えて肩痛臂痛を治し
川芎・大黃を加えて腦漏(蓄膿症)および眼耳痛を治し
荊芥・大黃を加えて疳瘡癰毒(梅毒)を治するが如し

尾台榕堂『類聚方広義』頭注

- 此の処方、項背強急を主治するなり：項背強急+発熱悪寒+脈浮数
- 髄膜炎や破傷風、産後の感冒で、痙攣して気絶するもの、天然痘の初期
- 麻疹の初期
- 咽喉の腫痛、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎

様々な熱性疾患の初期の項背部のこわばり+慢性的な肩背部の凝り、目・耳・咽喉・皮膚疾患の初期

● 更年期障害に伴う後頸部のほりと頭痛に葛根湯が有効であった一例

木村 産婦人科領域から、更年期障害に伴う後頸部のほりと頭痛に葛根湯が有効であった症例を矢内原先生にご紹介いただきます。

矢内原 症例は52歳の女性で、主訴は頭重感、頭痛、吐き気、後頸部のほりです(図2)。



初診時診断は更年期障害で、水滯症状を認めていたことから半夏白朮天麻湯と後頸部のほりに対して葛根湯の頓用を開始しました。服用開始1ヵ月半後には、徐々に症状は軽快しており、約4ヵ月後には症状は消失しました。

更年期障害の特徴の一つは症状が多彩なことであり、東洋医学的観点からも気血水の異常が多岐にわたる病態であると考えられます。本症例は、水滯症状と後頸部のほりがあったため、2剤の処方が必要と考えました。半夏白朮天麻湯は頭重感、頭痛、吐き気の水滯(虚証)に、葛根湯は後頸部(表在)のほりを有する場合に有効であり、更年期の様々な症状に対応することができました。葛根湯は即効性もあり、頓用の希望が多い処方です。

木村 肩こりを訴える女性患者さんは、葛根湯にどのような印象をお持ちですか。

矢内原 葛根湯は服用後速やかに症状が軽快するので、“切らすのが嫌”という患者さんが多くいらっしゃいます。

木村 更年期では巡りの悪さが顕著になることで肩こり

を訴える方も多くなると思います。先生は肩こりに対して葛根湯のほかにはどのような処方を使われていますか。

矢内原 肩こりにほてりなどの血管症状が現れている場合には桂枝茯苓丸、不眠や不安感などの精神症状が現れている場合には加味逍遙散を使用することが多くあります。また、頭痛のみで血圧が高めの場合は釣藤散などを使用することもあります。

● 肩こり、耳痛に葛根湯が有効であった症例

木村 肩こりだけでなく耳痛にも葛根湯が有効であった症例について、新谷先生からご紹介いただきます。

新谷 症例は58歳の女性で、主訴は右耳痛、肩こりです(図3)。X年7月16日に右耳痛、痰が絡む、肩こり(右肩から首、耳まで)があり、さらに同14日から身体の中が熱いとのことでした。肩こり・感冒症状に対して葛根湯を処方したところ、肩こりと右耳痛が数日で改善したため、葛根湯の継続処方を希望されました。その後は、1～2回/年の感冒症状、首・肩こりがあるときに来院され、葛根湯の服用3日以内に症状は改善しています。

木村 葛根湯の服用で耳痛も改善したということですか。

新谷 急性の感冒症状に伴う中耳炎や耳下腺炎、リンパ節

図2 更年期障害に伴う後頸部のほりと頭痛(52歳 女性)

主 訴

頭重感、頭痛、吐き気、後頸部のほり

所 見

身長: 152cm、体重: 47kg、BMI: 20.3
血圧: 138/90mmHg、血液検査異常なし

東洋医学的所見

● 舌診: 暗紅色、やや乾燥 ● 脈診: 浮 緊 ● 腹診: 特記すべき所見なし

初診時診断・治療

● 初診時診断: 更年期障害
● 水滯症状より、半夏白朮天麻湯エキス細粒(7.5g/日)と、頓用での葛根湯エキス細粒(3.75g/回)の処方を開始した。

臨床経過

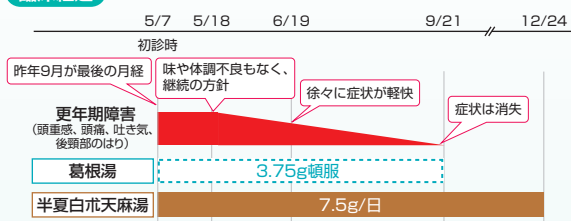


図3 肩こり、耳痛(58歳 女性)

主 訴

右耳痛、肩こり。

現病歴

● X年7月16日、右耳痛、痰が絡む、肩こり(右肩から首、耳まで)。
● 同14日から身体の中が熱い。

所 見

● 脈診: 浮 ● 手が冷たい ● 右鼓膜正常、軽度咽頭発赤

治 療

肩こり・感冒症状に対して、葛根湯エキス細粒(7.5g/日)の処方を開始した。

臨床経過

肩こり、右耳痛が改善したため継続処方を希望された。
1～2回/年に感冒症状、首、肩こりがあるときに来院される。葛根湯の3日間の服用で症状は改善する。

第二部

炎などの症状に対して、葛根湯を多く使用しています。即効性があるので、大半の患者さんは数日の服用で症状は改善します。

木村 葛根湯と葛根湯加川芎辛夷をどのように使い分けていますか。

新谷 膿性鼻汁や上顎部に痛みがある方には葛根湯加川芎辛夷、感冒初期や耳症状のある方には葛根湯を選択することが多くあります。

● 間質性膀胱炎の症状増悪時に葛根湯が奏効した症例

木村 肩こりによって悪化した頻尿に葛根湯が奏効した症例について、中村先生にご紹介いただきます。

中村 間質性膀胱炎は、膀胱の非特異的な慢性炎症を伴い、頻尿・尿意亢進・尿意切迫感・膀胱痛などの症状を呈する疾患で、膀胱鏡で間質性膀胱炎に特異的に認めるハンナー潰瘍病変が確定診断となります。本症は原因不明のため根治療法はなく、難病に指定されています。治療は鎮痛薬・抗うつ薬・抗アレルギー薬などの薬物治療を中心とした対症療法が行われます。冷えや刺激物の摂取、ストレスによって症状の増悪を認めるため、漢方治療が症状のコントロールに有効なケースも多くあります。

症例は55歳の女性で、主訴は畜尿時痛、頻尿です(図4)。1年前から畜尿時痛と頻尿(15~20回/日)があり、他院で再発性膀胱炎や過活動膀胱の診断で治療されていましたが、症状が改善しないため当院を受診しました。間質性膀胱炎の診断にて薬物療法を開始したところ症状の改善が認められました。治療開始6ヵ月後には薬剤の減量を開始しましたが、ストレスや食事内容によって膀胱痛、頻尿が悪化するため、従来から使用している薬剤の服用量は自己調節して経過をみていました。

感冒症状やひどい肩こりがあるときに膀胱痛や頻尿が悪化するとの訴えがあったことから、症状発現時に葛根湯を頓用で使用したところ、症状の悪化はみられなくなりました。

図4 間質性膀胱炎(55歳 女性)

主訴

畜尿時痛 頻尿。

既往歴

うつ病。

現病歴

- 1年前から畜尿時痛および15~20回/日の頻尿があり、他院で再発性膀胱炎や過活動膀胱と診断され治療されるも症状は改善せず、当院受診となった。膀胱鏡でハンナー潰瘍を認め、間質性膀胱炎と診断し治療を開始した。
- アミトリプチリン塩酸塩(20mg/日)、プレガバリン(300mg/日)、スプラタストシル酸塩、ラフチジンの服用で膀胱痛はVAS2まで改善し、頻尿も10回/日程度におさまった。
- 6ヵ月後には薬剤の減量を開始するも、ストレスや食事内容によって膀胱痛および頻尿が悪化するため、アミトリプチリン塩酸塩およびプレガバリンの服用量は自己調節して経過をみている。

検査所見/東洋医学的所見

- 身長:158cm、体重:50kg、BMI:20。血液検査でHb値は10.0mg/dLと軽度の貧血あり。
- 皮膚は乾燥、冷えあり。疲れやすく、不眠あり、落ち込みやすい。雨天や気候の変化で体調をくずしやすい。
- 脈診:やや沈、細
- 舌診:淡紅色、薄白苔、舌下静脈怒張(一)
- 腹診:腹力弱い、振水音なし、鼠径部に圧痛

治療・臨床経過

- 感冒症状やひどい肩こりがあるときに膀胱痛や頻尿が悪化するとの訴えがあり、感冒症状の初期や肩こりが起きたときに葛根湯エキス細粒(7.5g/日)を頓用で処方したところ、葛根湯の服用で膀胱痛や頻尿の悪化がみられなくなった。
- 現在に至るまで葛根湯の頓用を継続している。

木村 間質性膀胱炎の治療では、患者さん個々の痛みの悪化要因を見つけて、それに対応することが大切ということですか。

中村 間質性膀胱炎に特徴的な頻尿や膀胱痛などの症状は、体調不良やストレスなどで悪化するため、全身状態を健全に保つことが重要です。本症例のように症状発現時に速やかに葛根湯を服用することで、間質性膀胱炎に伴う症状の増悪を抑えることができます。

● 乳腺炎に葛根湯が有効であった症例

木村 葛根湯は肩こりだけでなく、乳腺炎にも臨床応用されています。葛根湯が繰り返す乳腺炎に有効であった症例を佐々木先生にご紹介いただきます。

佐々木 症例は33歳の女性で、主訴は繰り返す乳腺炎で



す(図5)。X年6月7日に第一子を正常出産、母乳は多量に分泌されます。6月中旬頃から、両乳頭部の湿潤・紅斑・びらん・痛みがあり、母乳外来での治療では症状の改善がみられないため、6月29日に当科を受診しました。

葛根湯の服用を開始し、洗浄・ヘパリン類似物質クリームと授乳・母乳うっ滞予防マッサージは継続としました。再診時(7月11日)には、“すぐに治りました”とのコメントがあり、再燃はありません。

乳腺炎に対する葛根湯について、『医法円通 巻4 葛根湯円通応用法』に「足陽明胃経は眼瞼・乳房を走行しており、同部位に風熱がこもっている病態に対して葛根湯が熱を発散させることで治療できる」ことが記載されています。

葛根湯は温めて発散する方剤ですが、葛根や芍薬などの冷やす生薬も含まれているため、風熱にも使用が可能です。葛根が乳汁分泌を促し、腺機能にも作用して排膿を促します。特に乳腺開口不全でとどまっているような乳汁分泌を促し、逆に乳汁分泌過多のときにも有効です。また、葛根湯は乳児への影響はないとの記載が多くあります。

木村 「乳腺炎ケアガイドライン2020」¹⁾では、乳腺炎治療における葛根湯について「CQ5：乳腺炎の女性が葛根湯

を服用すると、乳腺炎症状(発熱・発赤・疼痛・腫脹)が改善するか?」に対しては、「今回は該当する研究が見つからず、エビデンスが存在しなかった」としつつも、「乳腺炎症状の改善を期待して慣例的に用いられている」と記載されています。

そこで、葛根湯が有効な乳腺炎の特徴について考えたいと思います。葛根湯を使用される際のポイントを教えてください。

佐々木 症状発現後早期から葛根湯を服用することがポイントです。膿瘍形成や硬結が強くなってしまった場合は、抗生剤と併用することでより効果が高まることが期待されます。

● 葛根湯により乳腺炎が治癒した1例

木村 岸本先生も葛根湯により乳腺炎が治癒した症例を経験されていますので、ご紹介いただきます。

岸本 症例は25歳の女性で産後3ヵ月、主訴は右乳房痛です(図6)。X月16日夕より右乳房に軽度の痛みがありました。同日の22時頃から悪寒とともに右乳房痛が悪化し、張り感も出現しました。体温は38.5℃で、クーリングで

図5 乳腺炎(33歳 女性)

主 訴

乳腺炎を繰り返している。

既往歴

アトピー性皮膚炎。ここ数年は保湿剤で落ち着いている。

現病歴

- X年6月7日：第一子正常出産。母乳はたくさん出る。
- 6月中旬～：両乳頭部湿潤・紅斑・びらん・痛み。母乳外来でステロイド外用を処方されるもよくならない。
- 6月29日初診：局所熱感・膿瘍形成なし。

所 見

- 中肉中背
- 脈診：浮 数
- 腹診：腹力3/5
- 舌診：淡白、湿潤、胖大

治療・臨床経過

- 葛根湯エキス細粒(7.5g/日)、洗浄・ヘパリン類似物質クリーム、授乳・母乳うっ滞予防マッサージは継続。
- 7月11日再診時：“すぐに治りました。”とのコメントあり。再燃なし。

図6 乳腺炎(25歳 女性、産後3ヵ月)

主 訴

右乳房痛。

現病歴

- X月16日夕より右乳房痛軽度あり。
- 同日 22時頃に悪寒とともに右乳房痛悪化、張り感も出現した。体温：38.5℃、クーリングにて37℃台まで解熱するも乳房痛は不変で頭痛も認めたため、翌日当院を受診した。

所見／東洋医学的所見

- 身長：164.5cm、体重：57.5kg、BMI：21.1、体温：37.2℃、血圧：118/75mmHg、脈拍：97拍/分。
- 乳房視触診：右内側(AB領域)に発赤、圧痛あり。
- 白血球数：6,200/ μ L(好中球 78.5%)、CRP：0.78mg/dL
- 脈診：浮 数 緊
- 舌診：淡紅色、舌苔：薄

治療・臨床経過

- 葛根湯エキス細粒(7.5g/日)を選択した。
- X月18日 再診：葛根湯エキス細粒 5g服用で解熱。右乳房自発痛は改善した。
- X月21日 再診：右乳房自発痛、圧痛とも消失し、終診となった。

第二部

37℃台まで解熱しましたが、乳房痛は不変で頭痛も認めてきたため、翌日に当院を受診しました。

東洋医学的所見から葛根湯を処方したところ、翌日(X月18日)の再診時には葛根湯の服用で解熱し右乳房自発痛は改善、3日後(X月21日)の再診時には右乳房自発痛・圧痛ともに消失していたため終診となりました。

木村 どのような患者さんに葛根湯は有効ですか。

岸本 感冒と同様に、乳腺炎でも初期の段階で用いることが重要です。しかも、かなり早く効くという印象があります。

● 葛根湯の症例(乳腺炎の2症例、蕁麻疹の症例)

木村 乳腺炎の2症例と蕁麻疹の症例について、陣内先生にご紹介いただきます。

陣内 症例1は33歳の女性で、主訴は乳房の張り・痛みです。初産後2日目の夜より急激な乳腺拡張と激痛で眠れないような状態でした。葛根湯(1包:3.75g)の服用後に母乳が自然と勢いよく流出し、それによって乳房の張りが軽快しました。さらに2時間後に1包を服用すると、同様に母乳流出後に乳房の緊張がかなり緩和されて眠ることができ、翌日以降も葛根湯の2~3包/日の服用で急激な乳腺拡張と激痛を抑えることができています。

症例2は30歳の女性で、主訴は母乳が詰まりやすい・乳房のしこりです。初産後1ヵ月から母乳の詰まりと乳房にしこりがあり、母乳間隔が1時間以上あくと乳房が張って辛いということで産後3ヵ月に当院を初診しました。葛根湯の2~3包の服用により母乳の出がよくなり、乳房の張り・しこりが軽快しました。

蕁麻疹の症例は、1歳2ヵ月の男児です。12月の寒さが厳しい日の外出後に、体幹・背中・太ももに赤い膨疹が出現しました。葛根湯(1包:2.5gの1/4量程度)を服用すると症状は速やかに消失しました。その後も外出時に葛根湯を少量服用することで蕁麻疹様の皮疹を予防できています(図7)。

木村 蕁麻疹の症例は1歳2ヵ月でしたが、漢方薬の服用のコツや工夫を教えてください。

陣内 本症例のように1歳前後のお子さんの場合、口の前に出されたものは味に関係なく口に含んでくれます。エキスを少量のお湯で溶いていただいて、スプーンで口の前にもっていきます。ザラザラ感が気になるようならレンジで加熱するときれいに溶けます。

図7 葛根湯の症例(乳腺炎、蕁麻疹)

乳腺炎 症例1(33歳 女性)

主 訴

乳房の張り・痛み

所 見

BMI:24.3。脈は緊張よく浮。

臨床経過

初産後2日目の夜より急激な乳腺拡張(カチカチ)と激痛。葛根湯エキス細粒 1包(3.75g)を服用後、母乳がダーッと流出し乳房の張りが軽快した。2時間後さらに1包を服用し、同様に母乳流出後に乳房の緊張緩和。翌日から2~3包/日を服用することで急激な乳腺拡張・激痛を抑えることができた。

乳腺炎 症例2(30歳 女性)

主 訴

母乳が詰まりやすい・乳房のしこり

所 見

BMI:19.5。脈の緊張中等度、中間。

臨床経過

初産後1ヵ月~母乳が詰まり乳房にしこりができる。母乳間隔が1時間以上あくと乳房が張って辛い。産後3ヵ月で当院を初診した。葛根湯エキス細粒 1包(2.5g)を2~3包/日服用。母乳の出がよくなり、乳房の張り・しこりが軽快した。産後9ヵ月で終診。

蕁麻疹(1歳2ヵ月 男児)

所 見

体格良好。

臨床経過

12月の寒さが厳しい日の外出後に、体幹・背中・太ももに赤い膨疹が出現した。葛根湯エキス細粒(1包:2.5gの1/4量程度)を服用すると蕁麻疹がきれいに消失した。外出時は少量内服することで蕁麻疹を予防できるようになった。

● 葛根湯の症例について

木村 シンポジストの先生からご紹介いただいた、葛根湯の症例についてまとめます。自覚症状は肩こりを中心に、乳房の症状や皮膚症状がありました。特に、効果発現までの期間が短い症例が大半でした(図8)。

頸・肩こりについて、『勿誤薬室方函口訣』では「外感の項背強急」だけでなく「積年肩背に凝結」が記載されています。また、矢数道明は「項背部の緊張を緩解することから、眼・耳・鼻の炎症等に応用される。これらの場合は必ずしも脈は浮とならないし、悪寒や発熱はなくともよいのである」と解説しています。そのようなことから、項背部のこわばりとしては、外感風寒による悪風・無汗・頭痛の他にも、太陽膀胱経の経気の流れのうっ滞による項背部のこわばりに有効ではないかと思います。

乳腺炎・乳汁不足については、『医方円通』では「足陽明胃経である乳房の邪気に対して、葛根湯で熱を発散させる

図8 葛根湯の症例について

所見	矢内原先生 52歳女性 更年期障害	新谷先生 58歳女性 右耳痛	中村先生 55歳女性 間質性膀胱炎による頻尿	佐々木先生 33歳女性 乳腺炎	岸本先生 25歳女性 乳腺炎	陣内先生 33歳/30歳女性 乳腺炎	1歳男児 蕁麻疹
体格BMI	20.3	中肉中背	20.0	中肉中背	21.1	24.3/19.5	—
自覚症状	頭重感・頭痛 吐き気 後頸部の張り	右耳痛 痰が絡む 肩こり	肩こりにより頻尿が悪化	両乳頭部 湿潤 紅斑・痛み	右乳房痛 頭痛 悪寒・発熱	乳房の張り 痛み	膨疹
後頸部の張り	後頸部	右肩から首・耳まで	肩こり	—	—	—	—
脈	浮緊	浮	やや沈	浮数	浮数緊	浮/中間	—
効果発現までの期間	1日	1~2日	3日以内	1日	1日	1日	数分
体表の状態	後頸部張り	耳頸肩こり	肩こり	乳房の張り	乳房の張り	乳房の張り	膨疹
表実	後頸部	耳頸肩	肩	乳房	乳房	乳房	体幹背中大腿

表実でその実が項背の緊張または体表部の限局性緊張として現れる

ことで治療する」、矢数道明は「項背に限らず、体表部のどこかに、多くは上半身に限局性の化膿性の浸潤があるときに用いる」と解説しています。

蕁麻疹については、龍野一雄は「急性湿疹、蕁麻疹等の皮膚病で分泌がない(無汗とみる)」ものに用いると解説し、さらに「表実でその実が項背の緊張として現れるか、或は、体表部の限局性緊張として現れるかである。熱を伴うときと、然らざるときとがある」と述べています。

葛根湯は主薬の葛根がポイントで、①胃気で津液を上昇、②陽明は筋肉を主る、という効能が大切であると思います(図9)。

ご紹介いただいた症例を改めて見ると、項背部あるいは肩、乳房、体幹などに表実の所見があり、その実が項背の緊張または体表部の限局性の緊張として現れる、そのような症例に葛根湯は有用ではないかと考えられます(図8)。

当帰芍薬散の口訣を考える

木村 当帰芍薬散は当帰、川芎、芍薬、茯苓、朮、沢瀉で構成される処方で、効能・効果は「比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり、疲労しやすくとときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸などを訴える次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後あるいは流産による障害(貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ)、めまい、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ」です。

原典の『金匱要略』では、陰虚証の瘀血・血虚と水毒の病態、主に婦人の腹痛に用いられる処方であると記されています。当帰芍薬散と腹痛について、有持桂里は『稿本方輿輦』で「男子疝にて下者と同じ様なる所へよきなり。当帰芍薬散は腹痛を主とする薬なり」と述べており、当帰芍薬散は腹部の冷えによる痛みで使用されることが示されています。

また、当帰芍薬散の臨床応用は幅広く、「和血+利水」「建中湯証+水気」または「逍遙散証+痛み」があり、神経症状は全身体質的に把握することが大切であることが示されています(図10：次頁参照)。

● 月経困難症に当帰芍薬散が有効であった一例

木村 当帰芍薬散は婦人科領域で頻用される処方です。矢内原先生に月経困難症に当帰芍薬散が有効であった症

図9 葛根湯の応用

〈頭肩こり〉

- 後頸部の張り 頭重・頭痛 52歳女性 脈浮 頭 後頸部 → 太陽膀胱経
- 右肩から頭・耳までのこり 58歳女性 脈浮 耳
- 肩こりにより間質性膀胱炎の頻尿が悪化 56歳女性 脈やや沈
→ 「勿誤薬室方函口訣」「外感の項背強急」「積年肩背に凝結」
→ 矢数道明「項背の緊張を緩解することから、眼・耳・鼻の炎症等に応用される。これらの場合は必ずしも脈は浮とならないし、悪寒や発熱はなくともよいのである」

葛根湯

葛根 麻黄 桂皮 芍薬 甘草 大棗 生姜
項背のこわばり
① 外感風寒による悪寒・無汗・頭痛
② 太陽膀胱経の経気の流れのうっ滞

〈蕁麻疹〉

- 寒い日の外出時1歳男児
→ 龍野一雄
「急性湿疹、蕁麻疹等の皮膚病で分泌がない(無汗とみる)」

〈葛根〉 帰経：脾胃(主に陽明に作用)

- ① 胃気で津液を上昇→項背筋の硬直を緩和
- ② 陽明は筋肉を主る→解肌退熱・透発疹

〈乳腺炎・乳汁不足〉

- 乳腺炎を繰り返している33歳
- 悪寒・発熱とともに乳房痛・張り感が出現した25歳
- 乳房の張り・痛みの33歳・30歳
→ 「医方円通」足陽明胃経である乳房の邪気に対して、葛根湯で熱を発散させることで治療する。
→ 矢数道明
「項背に限らず、体表部のどこかに、多くは上半身に限局性の化膿性の浸潤があるときに用いる」

龍野一雄

「表実でその実が項背の緊張として現れるか、或は、体表部の限局性緊張として現れるかである。熱を伴うときと、然らざるときとがある」

第二部

図10 当帰芍薬散

構成生薬

当帰、川芎、芍薬、茯苓、朮、沢瀉

効能・効果

比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり、疲労しやすくとくに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸などを訴える次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後あるいは流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）、めまい、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ

原典「金匱要略」

婦人妊娠病篇 「婦人懐妊、腹中疔痛するは、当帰芍薬散之れを主る」
婦人雜病篇 「婦人の腹中の諸疾痛は当帰芍薬散之を主る」

陰虚証の瘀血・血虚と水毒の病態+主に婦人の腹痛に用いられる処方

浅田宗伯「勿誤薬室方函口訣」

「この方は吉益南涯得意にて諸病に活用す（中略）全体は婦人の腹中疔痛を治するが本然れども、和血に利水を兼ねたる方 建中湯の症に水気を含める者か逍遙散の症に痛を帯る者か何れにも広く用うべし」

尾台格堂「類聚方広義」頭注

「婦人血気痛（月経痛）小便不利は此の方に宜しき者あり」

龍野一雄「漢方医学大系」

「虚証、貧血性、冷え性の人で神経症状を訴える」
「その訴えは一言にして尽せは取りとめのない、何処がどういふことのないような訴えでしかも訴えることが多く（中略）」
「不定な訴えで全体的に亘っているものは全体的な体質的に取扱うのが正しい」

和血+利水「建中湯証+水気」「逍遙散証+痛み」
神経症状 → 全体的体質的に把握

例をご紹介します。

矢内原 症例は25歳の女性で、主訴は月経困難症、月経前症候群（PMS）でむくみ、下腹部痛、眠気を認めていました（図11）。市販の解熱鎮痛薬を服用しても月経痛が改善せず、以前に漢方薬（当帰芍薬散、加味逍遙散）を3ヵ月間服用しましたが効果は不明とのことで、今回はピルの処方の希望にて来院されました。

初診時診断は月経困難症、PMSであり、低用量ピル（LEP）の処方を開始しました。LEPの服用で症状はほとんど軽快に向かっていましたが、LEPの休薬時に痛みが少し残ることと、足の冷え、顔のむくみが改善しないため漢方薬の併用を希望されました。所見から水滯と瘀血を考へて当帰芍薬散を処方したところ、3ヵ月後に症状は改善し、より快適になったとのことで、現在もLEPと当帰芍薬散の併用を継続しています。

月経困難症は、月経に随伴して起こる病的症状であり、月経時あるいは月経直前より始まる強い下腹部痛や腰痛を主症状とします。下腹痛、腰痛、腹部膨満感、嘔気、頭

図11 月経困難症（25歳 女性）

主訴

月経困難症、PMS（むくみ、下腹部痛、眠気）

現病歴

- 市販の解熱鎮痛薬を服用しても月経痛が改善しない。
- 以前、漢方薬（当帰芍薬散、加味逍遙散）を3ヵ月間服用したが、効果は不明であった。
- ピルの処方を希望して来院された。

所見

身長：162cm、体重：52kg、BMI：19.8、血圧：112/83mmHg。
超音波検査：正常、血液検査：特記すべき異常なし。

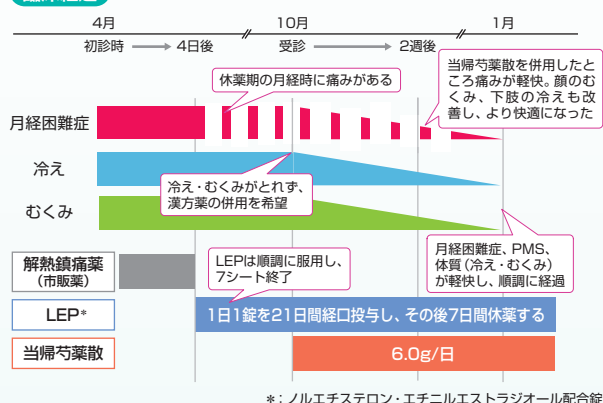
東洋医学的所見

- 舌診：淡白 湿潤
- 腹診：軟弱 下腹部抵抗・圧痛
- 脈診：細弱
- 足冷、下腿浮腫

初診時診断

月経困難症、PMS

臨床経過



痛、疲労・脱力感、食欲不振、イライラ、下痢および憂うつなど症状が多彩であり、東洋医学的観点からも多くの病態が混在すると考えられます。

本症例では、月経困難症でLEPの服用でも休業期の月経時に痛みを生じていたため、当帰芍薬散を併用したところ、痛みが軽快しQOLが改善しました。LEPの服用で改善し得るホルモン変動の症状とは別に、証に基づいた漢方治療を併用することで症状を改善することができると考えられます。

木村 LEPによる治療では、冷えや浮腫の改善効果は期待できませんか。

矢内原 LEPの服用で黄体ホルモンの分泌が抑制されるので、黄体ホルモンによる水分貯留作用による浮腫は軽快しますが、女性ホルモンに起因しない冷えによる浮腫や瘀血症状などは改善しきれないので、漢方薬の併用が必要になることがあります。

● 西洋薬の服用で改善しない便秘症に当帰芍薬散の追加で改善した1例

木村 西洋薬の服用で改善しない便秘症に当帰芍薬散を追加することで症状が改善した若年女性の症例を岸本先生にご紹介いただきます。

岸本 症例は27歳の女性で、主訴は便秘、腹部膨満感です(図12)。18歳頃から便通が悪く、1行/3～5日でコロコロ便でした。食事内容に気を付けて様子を見ていましたが、改善はありません。約1ヵ月前から腹部膨満感が出現したため、酸化マグネシウムを服用しましたが便秘症状は改善せず、腹部膨満感も改善しないため当院を受診されました。

東洋医学的所見から、酸化マグネシウムに加え当帰芍薬散の併用を開始しました。再来時(7日目)に、「服用開始3日目くらいからコロコロ便ではなく普通便になり、腹痛もなく、排便は1行/1～2日であり、腹部膨満感も消失した」とのことでした。現在も服用を継続中ですが、良好に経過しています。

当帰芍薬散は、補血作用を有する生薬と利水作用のある生薬で構成されています。本症例は血虚(月経時腹痛・腰痛、舌診：暗赤色)・水毒(月経時下痢傾向、下肢浮腫、脈診：滑脈)の状態であり、当帰芍薬散が良かったと考えています。さらに「血」を補う当帰は、調経作用、補血作用、止痛作用のほかに潤腸作用も有するため、「血」の異常を伴う便秘症に当帰芍薬散を処方することで改善する可能性

図12 便秘症(27歳 女性)

主訴

便秘、腹部膨満感。

現病歴

- 18歳頃から便通が悪く、1行/3～5日でコロコロ便。食事内容に気を付けて様子を見ていたが改善なし。
- 約1ヵ月前から腹部膨満感が出現。酸化マグネシウムを服用したが、コロコロ便は変わらず。
- 腹部膨満感も改善しないため、X月22日に当院を受診した。

身体所見／東洋医学的所見

- 身長：154cm、体重：46kg、BMI：19.4
- 月経不順なし
 - 月経前に下痢傾向
 - 月経前に腰痛、腹痛
 - 足の張り(浮腫)が気になる
 - 脈診：沈滑
 - 舌診：暗赤色 薄白苔 舌下静脈拡張
 - 腹診：腹力2/5 両臍傍圧痛

治療・臨床経過

- 酸化マグネシウム(750mg/日)に加え、当帰芍薬散エキス細粒(6g/日)で治療を開始した。
 - 初診より7日目に再来。「服用開始3日目くらいからコロコロ便ではなく普通便になった。腹痛もなく、排便は1行/1～2日、腹部膨満感も消失した」
- 継続服用希望あり、現在服用継続中。排便状態に変化なし。

が示唆されました。

木村 この患者さんは月経前に下痢や腰痛・腹痛があるということでしたが、それらの症状はどうになりましたか。

岸本 それらの症状も改善しました。月経前の腹痛・腰痛に服用していた鎮痛剤も不要となり便通も良好で、かなり状態が良くなったと喜んでおられました。

● 子宮筋腫による頻尿・下腹部膨満感に対して当帰芍薬散が奏効した症例

木村 子宮筋腫による頻尿・下腹部膨満感に当帰芍薬散が奏効した症例を中村先生にご紹介いただきます。

中村 症例は45歳の女性です(図13)。最大11cm大の多発子宮筋腫があり、手術の希望なく婦人科にて経過観察中です。頻尿や残尿感などの症状があり、当科を初診しました。冷えて症状が増悪することでした。

頻尿に対してはソリフェナシンコハク酸塩を、子宮筋腫の合併に加え冷えにより頻尿が悪化するなどの症状に当帰芍薬散を処方しました。1ヵ月後に便秘が悪化したため、当帰芍薬散の服用のみで経過をみることにしました。3ヵ月後には冷えなどの症状は改善し、同時に頻尿症状も改善を認めました。1年後の現在に至るまで、当帰芍薬散の投与

図13 子宮筋腫(45歳 女性)

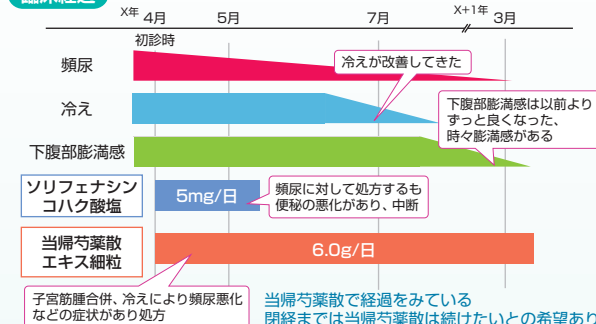
現病歴

- 最大11cm大の多発子宮筋腫があり婦人科通院中。
- 手術の希望なく経過をみていたが、頻尿や残尿感などの症状があり、X年4月に当科を初診。冷えて症状の増悪あり。

身体所見／東洋医学的所見

- 身長：156cm、体重：51kg、BMI：21。
- 中肉中背、色白、手足の先は冷たくときどき痛む。
- 便通は1～2日に1回。
- 食欲は正常。浮腫みやすく、疲れやすい。
- 脈診：沈細
- 舌診：淡紅 先端はやや紅、薄白苔、舌下静脈怒張あり
- 腹診：腹力弱、胃下振水音軽度、右下腹部に軽い圧痛あり

臨床経過



第二部

のみで経過をみていますが、下腹部膨満感は初診時よりかなり改善しました。閉経までは当帰芍薬散を服用したいとの本人の希望で、現在も服用を継続しています。

木村 冷えて頻尿になる方が多いと思いますが、先生はどのような生活指導をされていますか。

中村 女性は冷えが多いですが、冷えて頻尿症状が悪化することは多くみられるので、腹部や腰部はカイロを貼って温めていただき、ソックスを履いて足先が冷えないようにしていただくなどの指導をしています。

● 月経前の口唇の荒れ、高齢者下腿浮腫に当帰芍薬散が有効であった症例

木村 皮膚科での当帰芍薬散の活用例2例を佐々木先生にご紹介いただきます。

佐々木 症例1は27歳の女性で、主訴は3日前からの口唇の荒れです(図14)。1年前より、月経開始3日前から口唇が荒れるとのこと。今まではワセリンの外用で月経開始とともに治っていましたが、今回は治らないため当科を受診されました。月経前3日間に胸の張り・四肢むくみがあり、月経期間中は軟便気味です。月経周期は順調です。月経初日のみ市販の鎮痛剤を服用していました。

当帰芍薬散とヘパリン類似物質クリームを処方したところ、口唇の荒れ・冷え・むくみが改善しました。月経痛も軽減し、市販の鎮痛剤は不要となりました。現在は、当帰芍薬散を月経開始の1週間前から月経開始後3日間服用し、その期間中は糖分・冷飲食を控えるようにアドバイスしています。

木村 食事指導をされていますが、治療効果に影響はありますか。

佐々木 治療効果に影響はあると思いますし、患者さんも効果の違いを実感されています。

木村 次に、当帰芍薬散を高齢女性に使用して有効であった症例について、佐々木先生にご紹介をお願いします。

佐々木 症例は80歳の女性で、主訴は下腿が腫れぼったい(図14)。左下腿打撲後皮下血腫・蜂窩織炎・皮膚潰瘍の治療軽快後、以前より下腿が腫れぼったく、ひどくなると左膝関節症のための痛みが強くなり、さらに軽微な刺激であちこちに皮下出血斑ができるとのことでした。皮膚表面は乾燥して保湿剤を外用中ですが、皮下は水っぽく腫れぼったい状態でした。

当帰芍薬散を処方したところ、2週間後の再診時には腫れが軽減し、左膝痛が現れなくなったとのことで、現在も当帰芍薬散を継続服用中です。

当帰芍薬散は月経困難症や更年期症候群に頻用される処方ですが、基本は脾虚・寒証の方の津液停滞・血虚・瘀血のいろいろな症状に用いられる処方であると捉えています。

木村 「表面が乾燥して皮下が水っぽい感じ」を血虚と水毒と考えられたのですか。

佐々木 たとえば、心不全などがある高齢者で比較的“チャポツとしている”方にこのような所見があります。

図14 皮膚科領域における当帰芍薬散の応用例

症例1 月経前の口唇の荒れ(27歳 女性)

主 訴

3日前から口唇が荒れている。

現病歴

- 1年前より、月経3日前から口唇が荒れる。ワセリン外用で月経開始とともに治っていたが治らないため受診した。
- 月経前3日間、胸の張り・四肢むくみ。月経期間中は軟便気味。
- 月経周期順調、初日のみ市販鎮痛剤を服用。

東洋医学的所見

- やせ型、色白、手足腹部に冷え、口唇は白っぽく乾燥・浅い亀裂。
- 脈診：沈 弱
- 腹診：腹力2/5、心下振水音
- 舌診：淡白、胖大、湿潤、齒圧痕

臨床経過

- 当帰芍薬散エキス細粒(6.0g/日)、ヘパリン類似物質クリームを処方。口唇の荒れ・冷え・むくみが改善、月経痛軽減(鎮痛剤不要となる)。
- 月経開始前1週間から月経開始後3日間服用を継続。服用期間中は糖分・冷飲食を控えるようアドバイス。

症例2 下腿浮腫(80歳 女性)

主 訴

下腿が腫れぼったい。

現病歴

- 左下腿打撲後皮下血腫・蜂窩織炎・皮膚潰瘍治療後。
- 以前より下腿が腫れぼったくひどくなると左膝が痛くなる。
- 軽微な刺激であちこちに皮下出血斑ができる。

既往歴

- 左乳癌：術後レトロゾール服用中。
- 左膝関節症。

東洋医学的所見

- 水肥り、手足腹部に冷え、両足首などに細絡がめだつ。
- 皮膚表面は乾燥(保湿剤外用中)、皮下は水っぽく腫れぼったい。
- 脈診：沈 弱
- 腹診：腹力2/5、心下振水音
- 舌診：淡白、胖大、湿潤

臨床経過

- 当帰芍薬散エキス細粒(6.0g/日)を処方。
- 2週間後再診時、腫れが軽減し左膝痛が出なくなった。

木村 高齢になると乾燥症状が現れてきますが、そのような状態での血虚と水毒の診方ということで非常に参考になりました。また、下腿浮腫はどれくらいの期間で軽快されましたか。

佐々木 2週間後の再診時には見た目での変化はありませんが、自覚症状の重だるさと膝の痛みがなくなったとおっしゃっていました。

● めまい・耳鳴り・繰り返す胃腸炎に当帰芍薬散が奏効した症例

木村 陣内先生から高齢者の症例をご紹介します。

陣内 症例は86歳の女性で、主訴はめまい、耳鳴り、胃腸炎を繰り返す(図15)。良性発作性頭位眩暈症の既往が

あります。家事・介護の負担が増えたことを契機にX-2年からひどいめまいのため短期入院を繰り返し(3回/年)、体力消耗から体重が5kg以上減少してしまいました。六君子湯をベースに、苓桂朮甘湯をめまい・耳鳴りの症状に使用することで、めまいの頻度は軽減していましたが、X年9月に本人より当帰芍薬散の服用を希望されました。

六君子湯と当帰芍薬散を処方したところ、1ヵ月後には「体力がついて元気になった!」「耳鳴りが消えた」と喜んで来院されました。ご本人の希望で当帰芍薬散の服用量を増量したところ、経過は良好でめまいで苦しむことがなくなり、胃腸炎も起こさなくなりました。10ヵ月後には体重が約2年前と同程度にまで増量しました。

本症例は天候や気圧の変動時に増悪するめまいだったため「水」の病態があることは明らかでしたが、虚勞・筋力低下・冷え・皮膚乾燥などの所見から「血虚」がベースにあり、当初から補血を考慮すべき症例であったと考えています。

木村 高齢女性の場合は、たとえ患者さんの訴えが少なくても「血虚」の存在を考える必要があるということですか。

陣内 高齢者では本症例のように単に患者さんの訴えだけではなく、全身状態を総合的に診ることの重要性を実感した症例でした。

● コロナ罹患後の嗅覚障害に当帰芍薬散を用いた症例

木村 新型コロナウイルス感染症(コロナ)罹患後に嗅覚障害などの後遺症が問題となっていますが、当帰芍薬散で症状が改善した症例を新谷先生にご紹介いただきます。

新谷 症例は42歳の女性、主訴はコロナ後遺症で、嗅覚障害(焦げたにおいがする)です(図16: 次頁参照)。

X年8月4日に感冒症状があり、5日にPCR検査にてCovid19 陽性と判定され、6日に嗅覚障害に気づきました。9月22日に嗅覚障害が続いているため上咽頭擦過療法(EAT)を希望して当院を初診されました。静脈性嗅覚検査(アリナミンテスト)では嗅覚低下があり、また亜鉛サプリメントを服用していましたが、亜鉛値は低下していました。

当帰芍薬散、ステロイド点鼻薬の処方に加え、EAT1回/週を施行しました。嗅覚障害は、10月9日にはだいぶ回復し、X+1年2月21日には改善はしているものの変動があり、仕事が忙しいと嫌なにおいがしてくるが仕事は罹患前と同様のペースで行えるようになっているとのことでした。

図15 めまい・耳鳴り・繰り返す胃腸炎(86歳 女性)

主 訴

めまい、耳鳴り、胃腸炎を繰り返す。

現病歴

- 夫とともに漢方外来通院中であったが、夫の老衰の進行に伴い家事・介護の負担が増加、X-2年頃よりひどいめまいのため短期入院を繰り返していた(めまい → 嘔吐してぐったり。1年間で3回入院)
- 六君子湯をベースに、苓桂朮甘湯をめまい・耳鳴りの症状に使用し頻度は軽減していたが、X年9月に本人より当帰芍薬散の服用を希望された(新聞広告)。

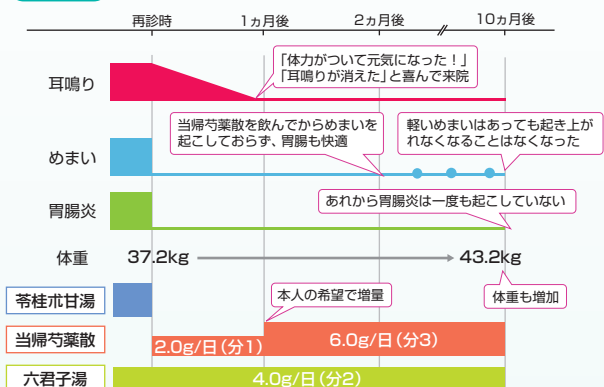
所 見

身長: 147cm、体重: 37.2kg、BMI: 17.2
呼吸音に異常を認めない。下腿浮腫を中等度認める。

東洋医学的所見

- 自覚症状: 疲れやすい、天気の良い日にめまいが起こりやすい、皮膚が乾燥して痒い、耳鳴り、むくみ(足)、二便は正常(胃腸炎を起こしている時以外)。
 - 色白で華奢。手足は冷えている(自覚はない)。
 - 脈診: 沈 虚
 - 舌診: 淡紅色、薄白苔、やや乾燥
 - 腹診: 腹力軟弱で薄い腹壁、特記所見なし
- 1年前に下腿骨折を起こした後、四肢筋力低下からリハビリを週3回で続けている。

臨床経過



第二部

図16 コロナ罹患後の嗅覚障害(42歳 女性)

主 訴

コロナ後遺症、嗅覚障害(焦げたにおいがする)。

既往歴

2年前より片頭痛(バルプロ酸ナトリウム、エレクトリプタン臭化水素酸塩)、便秘(ルビプロストン)。

現病歴

- X年8月4日:感冒症状があり、5日 PCR検査でCovid19 陽性、6日に嗅覚障害に気づく。
- X年9月22日:嗅覚障害が続いている。コロナ後遺症の治療として上咽頭擦過療法(EAT)希望で当院を受診した。鼻内に異常所見なし。

検査所見

- 静脈性嗅覚検査(アリナミンテスト)、嗅覚低下あり(開封時の認知0、潜伏時間 40秒、持続時間 20秒。何のにおいかわからない)。
- 異臭症(食べ物が古い木材のにおいがする)。
- 亜鉛サプリメント10mg/日の服用中だが、亜鉛値は低下(67 μ g/dL)。

身体所見/東洋医学的所見

- 身長:158cm、体重:53kg、BMI:21.2、血圧:106/68mmHg。
- 排便:1行/2~3日、排尿:6回、夜間尿:1回、足のむくみ、冷えがある。
- 気血水スコア:血虚 16点、瘀血 35点、気虚 6点、気うつ 26点、気逆 4点、水滯 18点。
- 舌診:淡い色、舌下静脈怒張(一)、やや乾燥
- 脈診:沈 弱
- 腹診:胸脇苦満(一)、左右瘀血の圧痛(+)、臍下不仁(+)、腹力 2/5

→ 陰虚症で水毒、瘀血・血虚を認める

治 療

当帰芍薬散エキス細粒(6g/日)、ステロイド点鼻薬、EAT1回/週。

臨床経過

- X年10月9日:臭いはだいぶん回復、煙臭さはあるが薄れてきて、頭痛も改善、焦げたにおいはする、揚げた肉はコア臭がする、仕事が忙しいとおいかわからないくなる、異臭がする。
- X+1年2月21日:嗅覚障害は7→2点まで改善したが、変動はある。仕事が忙しいと嫌なにおいがしてくる。便通が改善、仕事は通常通り行える。

コロナ後遺症問診(初診時→治療後)

- 倦怠感:4→0
 - 頭痛:8→0
 - 気分の落ち込み:2→0
 - 嗅覚障害:7→2
 - 活動後のだるさ:3→0
 - 咳:3→0
 - しびれ:2→0
 - 思考力低下:2→0
 - 味覚障害:6→2
- (いずれも/10点)

コロナ後遺症では、発症早期に高率に嗅覚・味覚障害が³⁾発生することが知られています。嗅覚障害は病態別に気導性嗅覚障害(嗅粘膜の炎症や浮腫、嗅裂の閉塞)、嗅神経性嗅覚障害(感冒後嗅覚障害)、中枢性嗅覚障害(脳挫傷、認知症、パーキンソン病など)に分類されますが³⁾、コロナ後遺症の嗅覚障害は、感冒後嗅覚障害に準じた治療が行われます。

「嗅覚障害ガイドライン」²⁾では、感冒後嗅覚障害に対して当帰芍薬散が提案されています(推奨度C)。感冒後嗅覚障害ではウイルスによる嗅神経線維の変性脱落が主病態で、嗅神経は神経細胞としては特異な再生能力を有してお

り、神経成長因子(Nerve growth factor: NGF)が再生促進作用を有します³⁾。当帰芍薬散の服用で再生嗅細胞、幹細胞である基底細胞が増加し、1年後の改善率は約80%と報告されています⁴⁾。

本症例で併用したEATは、塩化亜鉛液を用いた上咽頭擦過による診断と治療であり、後鼻漏、咽頭痛、倦怠感、発熱、頭痛、身体の痛み、息苦しさ、咳、動悸、思考力の低下や嗅覚障害(焦げたにおいなどの異臭症)、味覚障害などに有効であり、コロナ後遺症の症状と重複することから併用しました。

木村 当帰芍薬散の服用期間はどれくらいが適当ですか。

新谷 約3ヵ月間の服用をお勧めしています。

木村 コロナ後遺症の嗅覚障害に対して、その他にどのような処方を用いていますか。

新谷 当帰芍薬散の他には人參養榮湯や加味帰脾湯が有効との報告があります。

● 当帰芍薬散の症例

木村 シンポジストの先生方から、いろいろな症例をご紹介いただきました(図17)。体格は比較的痩せ型が多く、血虚・瘀血では月経関連症状、高齢患者さんの乾燥症状や皮下の水毒の症例もありました。また、冷えは多くの症例で見られていました。

月経関連症状については、『金匱要略』に「婦人の腹中疝痛」の記載があります。水毒症状について、子宮筋腫によ

図17 当帰芍薬散の症例について

所見	矢内原先生 25歳 女性	岸本先生 27歳 女性	中村先生 45歳 女性	佐々木先生 27歳 女性	80歳 女性	陣内先生 86歳 女性	新谷先生 42歳 女性
	月経困難症	便秘症	巨大子宮筋腫による頻尿	月経前の口唇荒れ	下腿浮腫	めまい・耳鳴・胃腸炎	コロナ罹患後味覚障害
体格BMI	19.8	19.4	21.0	痩せ型	水肥り	17.2	21.2
血虚瘀血	月経痛	月経前に腰痛・腹痛 舌暗赤色 舌下静脈怒張 両側臍脇痛	子宮筋腫	口唇荒れ 月経痛	皮下血腫 細絡	乾燥症状(皮膚・舌) 筋力低下	血虚スコア 16点 瘀血スコア 35点
水毒	顔の浮腫	月経時の下痢 下肢浮腫	頻尿	四肢浮腫	下腿浮腫	めまい 下腿浮腫	足の浮腫 水滯スコア 18点
冷えの有無	○ 下肢	—	○	○ 手足腹部	○ 手足腹部	○ 手足	○

る頻尿が冷えて増悪するという症例が提示され、大塚敬節は「冷えると小便頻数」によいと述べています。また、尾台榕堂は『類聚方広義』頭注で、「婦人血氣痛(月経痛)小便不利は此の方に宜しき者あり」と述べており、当帰芍薬散は頻尿と尿量減少の両方の水毒の病態に用いることができます。

高齢者について尾台榕堂は『類聚方広義』頭注で、「妊娠産後 下痢腹痛し 小便不利 腰脚麻痺して力無く或は眼目赤痛する者」と述べています。龍野一雄は『漢方医学体系』で虚証の血水証ということで、「血色が悪い。やや乾燥気味でありながら水っぽいようなたるんだ肌である。つまり皮下に水気を帯びてそのために血の巡りが悪くしまりがなくてたるんでいるような肌をしている」と表現されています。

コロナ後遺症の嗅覚障害に対する有効例をご提示いただきましたが、宇津木昆台は『古訓医伝』で、「実にこの方(当帰芍薬散)は活用広くして神仙の伝方なること疑いなし。余もこれまで一切腹中に、水血の凝りたる証に用て、毎々功を得たり」と述べており、当帰芍薬散は幅広い臨床応用が期待される処方の一つであると考えられます(図18)。

図18 当帰芍薬散の応用

〈月経関連症状/腹痛症状〉

- 月経困難症 25歳
- 月経前の口唇の荒れ 月経痛 27歳
- 便秘症 月経時に下痢傾向 月経前に腰痛・腹痛 27歳
- 『金匱要略』『婦人の腹中疼痛』

〈水毒症状〉

- 子宮筋腫による頻尿 (冷えて増悪) 43歳
- 大塚敬節「冷えると小便頻数」 (cf) 尾台榕堂『類聚方広義』頭注
- 「婦人血氣痛(月経痛)小便不利は此の方に宜しき者あり」

当帰芍薬散

当帰 川芎 芍薬 茯苓 朮 沢瀉

〈コロナ後遺症〉

- 嗅覚障害 42歳
- 嗅粘膜の浮腫 循環障害

〈高齢者〉

- 下腿浮腫(皮下血腫後) 80歳女性 皮膚表面は乾燥 皮下が水っぽい感じ
- めまい・耳鳴り・胃腸炎 86歳女性 乾燥症状 骨折後の筋力低下・虚勞
- 尾台榕堂『類聚方広義』頭注
- 「妊娠産後 下痢腹痛し 小便不利 腰脚麻痺して力無く或は眼目赤痛する者」

龍野一雄「漢方医学体系」

「虚証の血水証」 血色が悪い。やや乾燥気味でありながら水っぽいようなたるんだ肌である。つまり皮下に水気を帯びてそのために血の巡りが悪くしまりがなくてたるんでいるような肌をしている」

宇津木昆台「古訓医伝」

「実にこの方(当帰芍薬散)は活用広くして神仙の伝方なること疑いなし。余もこれまで一切腹中に、水血の凝りたる証に用て、毎々功を得たり」

図19 葛根湯と当帰芍薬散の現代の口訣(図19)

木村 葛根湯については項背部のこわばりが大切であり、外感風寒による悪風・無汗・頭痛だけでなく、太陽膀胱経の経気の流れのうっ滞からくる項背部のこわばりにも用いられます。また、体表が実している状態は、項背部の緊張として現れる場合と体表部に限局性の緊張として蕁麻疹や乳腺炎として現れる場合があります。後者の場合は分泌物がないのを無汗と捉えて葛根湯を処方することが考えられます。

当帰芍薬散については、陰虚証の血虚・瘀血と水毒の病態に幅広く使用できる処方です。主に婦人の腹痛に用いられる処方であり、それは腹部の“冷えによる痛み”であること、神経症状については局所症状にとらわれず、虚証の血水証として全身的な体質を重視することが大切です。また、高齢者に用いる場合には水毒よりも血虚の所見が多く認められ、皮膚・粘膜の乾燥のほか、筋力低下も血虚と捉えることで当帰芍薬散が有効な場合があると考えられます。

図19 葛根湯と当帰芍薬散の現代の口訣

葛根湯

● 項背部のこわばり：

- ① 外感風寒による悪風・無汗・頭痛
- ② 太陽膀胱経の経気の流れのうっ滞

● 体表が実している状態

- ① 項背部の緊張として現れる場合
- ② 体表部に限局性の緊張として現れる場合：蕁麻疹、乳腺炎など (分泌物がないのを無汗と捉える)

当帰芍薬散

- 陰虚証の血虚・瘀血と水毒の病態に広く使用できる処方
- 主に婦人の腹痛に用いられる処方 → 腹部の“冷えによる痛み”
- 神経症状 → 局所症状にとらわれず、全身的な体質を重視する(虚証の血水証)
- 高齢者では血虚>水毒：皮膚・粘膜の乾燥、筋力低下(腰脚麻痺して力無く)

【参考文献】

- 1) 日本助産学会・日本助産学会：乳腺炎ケアガイドライン 2020, 日本助産学会出版
- 2) 日本鼻科学会：嗅覚障害ガイドライン. 日耳鼻 56; 487-556, 2017
- 3) Miwa T, et al.: Role of nerve growth factor in the olfactory system. Microsc Res Tech 58: 197-203, 2002.
- 4) Noda T, et al.: Effects of Tokishakuyakusan on Regeneration of Murine Olfactory Neurons In Vivo and In Vitro. Chem Senses 44: 327-338, 2019